

# 平成27年国勢調査第2次試験調査

## 実施状況等報告書

平成25年11月

総務省統計局統計調査部  
国勢統計課

# 目次

<b>I 調査の概要</b>	1
<b>II 調査票の集計結果</b>	
第1 調査票の回収状況	12
第2 面接の状況	21
第3 調査票の記入状況	22
第4 オンライン調査における回答状況	27
<b>III 世帯アンケートの集計結果</b>	
第1 オンライン回答しなかった世帯	28
第2 オンライン回答した世帯	36
<b>IV 記録表の取りまとめ結果</b>	
第1 調査員記録表	40
第2 調査状況等記録表	70
第3 審査結果記録表	91

※ 「記録表の取りまとめ結果」は、調査員記録表、調査状況等記録表及び審査結果記録表に基づいたものであり、「調査票の集計結果」と一致しない場合がある。

# I 調査の概要

## 1 調査の目的

国勢調査は、統計法（平成19年法律第53号）に定める基幹統計調査として、同法第5条第2項の規定に基づいて実施する人及び世帯に関する全数調査であり、国及び地方公共団体における各種行政施策その他の基礎資料を得ることを目的としている。また、国勢調査は、我が国の最も基本的な統計調査として大正9年（1920年）以来5年ごとに実施しており、平成27年国勢調査はその20回目の調査に当たる。

平成22年国勢調査は、国勢調査開始以来初めて以下の調査方法を導入したところである。

- 全世帯が調査票を封入して提出すること
- 希望する世帯が郵送で提出すること
- 東京都内の希望する世帯がオンラインで提出すること

平成27年国勢調査実施計画の立案に当たっては、平成22年国勢調査で導入した調査方法に係る利点の推進及び課題への対応が不可欠であるとともに、調査票の記入精度の向上等を図る必要があり、特に、オンライン回答方式については、仕組み上不詳の発生を低減し、若年層を中心とした回収対策としても期待されることから、オンライン回答方式の推進に向けた取組を実施する必要がある。

このため、平成27年国勢調査第2次試験調査においては、第1次試験調査の実施状況を踏まえ、オンライン回答をさらに推進するための方策、オンライン回答先行方式の調査手法を円滑に実施するための工夫、調査票の記入状況を改善するための方策、調査員・市町村事務の事務負担軽減方策などについて検証した。

## 2 調査の地域

### (1) 市区町

秋田県秋田市、秋田県横手市、東京都中央区、東京都足立区、石川県白山市、石川県中能登町、京都府京都市、京都府八幡市、広島県広島市、広島県尾道市、香川県高松市、香川県東かがわ市、大分県大分市、大分県佐伯市の14市区町

### (2) 調査区

上記市区町に属する平成22年国勢調査調査区の中から、地域特性を考慮して選定した168調査区

※ 調査区は、総務省統計局（以下「統計局」という。）が指定する地域特性に該当する調査区を市区町が選定し、統計局において他の統計調査との重複排除の調整を行った上で決定

### 3 調査の期日及び日程

#### (1) 調査の期日

平成25年6月20日(木)午前零時現在

#### (2) 調査の主要日程

別紙1参照

### 4 調査の対象

調査の期日において、調査の地域内に常住する者

ただし、外国政府の外交使節団又は領事機関の構成員及び外国軍隊の軍人・軍属並びにこれらの家族を除く。

### 5 調査事項及び調査票

調査区ごとに、変形A4判両面形式の2種類（甲：4名連記・乙：3名連記※）のOCR（光学式文字読取）調査票を用いて、次の事項を調査した。（別紙2参照）

#### (1) 世帯員に関する事項（13項目）

ア 氏名	ク 5年前の住居の所在地
イ 男女の別	ケ 就業状態
ウ 出生の年月	コ 所属の事業所の名称及び事業の種類
エ 世帯主との続柄	サ 仕事の種類
オ 配偶の関係	シ 従業上の地位
カ 国籍	ス 従業地又は通学
キ 現在の住居における居住期間	

#### (2) 世帯に関する事項（5項目）

ア 世帯の種類	エ 住宅の建て方
イ 世帯員の数	オ 住宅の床面積の合計
ウ 住居の種類	

※ 京都府京都市及び大分県佐伯市においては調査票乙を配布し、その他の地域は調査票甲を配布した。

### 6 調査の方法

#### (1) 調査の流れ

統計局—都府県—市区町—調査員—世帯

#### (2) 調査の方法

※ 郵送調査における郵送の宛先は、市区町や調査員の事務支援を行うことを目的に総務省が契約した民間事業者（以下「民間サポート」という。）の事業所とした。

調査は、オンライン回答の期間を、調査員提出・郵送提出の期間に先行して設

定する方法（先行方式）により実施した。

### 《石川県中能登町及び香川県東かがわ市を除く市区》

- ア 調査員（世帯が居住する住居・施設等の管理者で、調査員業務の委託を受けた者を含む。以下同じ。）は、担当する調査区内を巡回し、当該調査区の範囲等を確認し、『調査についてのお知らせ』を配布するとともに、『調査区要図』を作成する。
- イ 『インターネット回答の利用案内』配布期間に、調査員は、担当する調査区内の全世帯を訪問し、面接の上で、オンライン回答用のID等を記載した『インターネット回答の利用案内』を配布して、調査を依頼する。その際、オンライン回答について推奨するとともに、『調査世帯一覧』を作成するために世帯主の氏名及び世帯員の数（男女の別を含む。）を聴取する。  
なお、不在世帯に対しては、日・時間を変えて少なくとも3回以上訪問し、さらに訪問を繰り返しても、世帯と面接することができない世帯に対しては、『インターネット回答の利用案内』を郵便受けに入れるなどして配布する。
- ウ 調査票配布期間前の所定の期間においては、世帯は、オンライン回答のみ行うことができる。
- エ オンライン回答期間の後、調査員は民間サポートから伝達されたオンライン回答世帯の情報により、オンライン回答をしていない世帯を特定する。
- オ 調査票配布期間に、調査員は、オンライン回答をしていない世帯を訪問し、面接の上で、調査票等を配布して、調査票への記入を依頼する。  
なお、不在世帯に対しては、『インターネット回答の利用案内』配布期間と同様に対応する。
- カ オンライン回答をしていない世帯は、記入済み調査票の提出について、『調査書類収納封筒』に封をしないで調査員に提出する方法、『調査書類収納封筒』に封をして調査員に提出する方法又は郵送により提出する方法のいずれかの方法を選択することができる。
- キ 調査票回収期間に、調査員は、オンライン回答をしていない世帯を訪問し、面接の上で、調査票の提出状況を確認するとともに、調査員提出を希望する世帯から、調査票を回収する。
- ク 調査票回収期間の後、調査員は『調査へのご協力ありがとうございます』（確認状）を郵便受けに入れるなどして配布する。また、オンライン回答をしていない世帯のうち最終的に面接できずに『調査世帯一覧』の世帯員の数等が記入できない世帯については、近隣の世帯等から、『調査世帯一覧』を作成するために世帯主の氏名及び世帯員の数（男女の別を含む。）を聴取する。
- ケ 調査員は、直接調査票を回収した世帯の調査票（『調査書類収納封筒』に封入した調査票を除く。）等を検査、整理の上、市区に提出する。
- コ 市区は、調査員から提出された『調査世帯一覧』及び『調査区要図』を民間

サポートに交付する。

サ 民間サポートは、調査票を提出していない世帯に『調査票提出のお願い』（督促状）、調査票、『郵送提出用封筒』及び『調査票の記入のしかた』を郵便受けに入れるなどして配布する。さらに、東京都中央区、東京都足立区、京都府京都市及び京都府八幡市においては、世帯が在宅していれば、直接、調査票の提出を依頼する。

### 《石川県中能登町及び香川県東かがわ市》

（《石川県中能登町及び香川県東かがわ市を除く市区》のアからオまでは共通であるので省略）

カ オンライン回答をしていない世帯は、記入済み調査票の提出について、『調査書類収納封筒』に封をしないで調査員に提出する方法又は『調査書類収納封筒』に封をして調査員に提出する方法のいずれかの方法を選択することができる。

キ 調査票回収期間に、調査員は、オンライン回答をしていない世帯を訪問し、調査票を回収する。

ク 調査票回収期間の後、調査員は『調査へのご協力ありがとうございます』（確認状）を郵便受けに入れるなどして配布する。また、オンライン回答をしていない世帯のうち最終的に面接できずに『調査世帯一覧』の世帯員の数等が記入できない世帯については、近隣の世帯等から、『調査世帯一覧』を作成するために世帯主の氏名及び世帯員の数（男女の別を含む。）を聴取する。

ケ 調査員は、調査票を回収した世帯の調査票（『調査書類収納封筒』に封入した調査票を除く。）等を検査、整理の上、市町に提出する。

コ 市町は、調査員から提出された『調査世帯一覧』及び『調査区要図』を民間サポートに交付する。

サ 民間サポートは、調査票を提出していない世帯に『調査票提出のお願い』（督促状）、調査票、『郵送提出用封筒』及び『調査票の記入のしかた』を郵便受けに入れるなどして配布する。

### (3) 報告の方法

世帯主（世帯の代表者を含む。）又は世帯員が調査票に記入し、調査員の質問に答え、調査票を調査員又は市区町に提出することにより行う。

## 7 アンケートの実施

当試験調査における検討事項について、より客観的な検証を行うために、『アンケート』を用いて、次の事項を把握した。

ア 調査票の規格について

イ 調査票の提出方法について

ウ オンライン回答について

## 8 その他

当試験調査は、国勢調査令（昭和55年政令第98号）第15条第1項第6号及び第2項第8号に規定する「調査方法についての基礎調査」として実施した。

なお、調査の実施については、統計法に基づく一般統計調査として総務大臣の承認を得ている。

## 平成27年国勢調査第2次試験調査の主要日程

【調査方法A：石川県中能登町及び香川県東かがわ市以外】

時期	世帯	調査員	市区町	都府県
4月中旬			事務打合せ会出席(統計局開催)	事務打合せ会出席(統計局開催)
5月中旬		調査員事務打合せ会出席	調査員事務打合せ会開催	調査員事務打合せ会出席
～5月28日(火)		担当調査区の確認、『調査についてのお知らせ』の配布		
5月29日(水)	オンライン	・『インターネット回答の利用案内』の配布		
～6月4日(火)	回答開始	・『調査世帯一覧』の作成		
～6月9日(日)	オンライン			
	回答期限			
～6月14日(金)	(民間サポート)			
	オンライン回答した世帯の特定及び調査員への伝達(世帯番号, 世帯主又は代表者の氏名及び世帯員の数など)			
6月15日(土)		・調査票の配布(オンライン回答していない世帯のみ)		
～19日(水)		・『調査世帯一覧』の作成		
6月20日(木)	調査期日			
6月20日(木)		調査票の回収及び調査票の提出状況の確認		
～26日(水)				
6月26日(水)	調査票の提出期限			
6月27日(木)		・『調査へのご協力ありがとうございます』(確認状)の配布		
～30日(日)	(民間サポート)			
	6月26日(水)までに郵送提出が確認された世帯の特定及び調査員への伝達(世帯番号)			
	・『調査世帯一覧』の補完(聞き取り)			
7月1日(月)		・回収した調査票, 『調査世帯一覧』等の検査		
～3日(水)		・回収した調査票, 『調査世帯一覧』等の市区町への提出		
7月上旬	(民間サポート)			
	未提出世帯への『調査票提出のお願い』(督促状)等の配布			
7月上旬			・調査票等の審査	調査書類審査会出席
～8月上旬			・調査書類審査会開催	調査書類審査会出席
7月中旬		調査員報告会出席	調査員報告会開催	調査員報告会出席
8月上旬			調査書類の都府県への提出	調査書類の統計局への提出
8月下旬			事後報告会出席(統計局開催)	事後報告会出席(統計局開催)

※ 民間サポート：市区町や調査員の事務支援を行うことを目的に、総務省統計局が契約する民間事業者



【調査方法B：石川県中能登町及び香川県東かがわ市】

時期	世帯	調査員	市区町	都府県
4月中旬			事務打合せ会出席(統計局開催)	事務打合せ会出席(統計局開催)
5月中旬		調査員事務打合せ会出席	調査員事務打合せ会開催	調査員事務打合せ会出席
～5月28日(火)		担当調査区の確認、『調査についてのお知らせ』の配布		
5月29日(水) ～6月4日(火)	オンライン 回答開始	・『インターネット回答の利用案内』の配布 ・『調査世帯一覧』の作成		
～6月9日(日)	オンライン 回答期限			
～6月14日(金)	(民間サポート) オンライン回答した世帯の特定及び調査員への伝達(世帯番号, 世帯主又は代表者の氏名及び世帯員の数など)			
6月15日(土) ～19日(水)		・調査票の配布(オンライン回答していない世帯のみ) ・『調査世帯一覧』の作成		
6月20日(木)	調査期日			
6月20日(木) ～26日(水)		調査票の回収		
6月27日(木) ～30日(日)		・『調査へのご協力ありがとうございます』(確認状)の配布 ・『調査世帯一覧』の補完(聞き取り)		
7月1日(月) ～3日(水)		・回収した調査票, 『調査世帯一覧』等の検査 ・回収した調査票, 『調査世帯一覧』等の市区町への提出		
7月上旬	(民間サポート) 未提出世帯への『調査票提出のお願い』(督促状)等の配布			
7月上旬 ～8月上旬			・調査票等の審査 ・調査書類審査会開催	調査書類審査会出席
7月中旬		調査員報告会出席	調査員報告会開催	調査員報告会出席
8月上旬			調査書類の都府県への提出	調査書類の統計局への提出
8月下旬			事後報告会出席(統計局開催)	事後報告会出席(統計局開催)

※ 民間サポート：市区町や調査員の事務支援を行うことを目的に、総務省統計局が契約する民間事業者

平成27年国勢調査第2次試験調査 調査票(甲)

秘

一般統計調査

平成27年国勢調査  
第2次試験調査

調査票甲

平成25年6月20日  
総務省統計局



この調査は、統計法に基づき政府が実施する統計調査です。秘密の保護には万全を期していますので、ありのままを記入してください。

数字は右づめに  
 黒の鉛筆で記入し、間違えた場合は、消しゴムできれいに消してください。  
 記入欄が○の場合は、当てはまる○を●のようにぬりつぶしてください。  
 数字を記入する場合は、右の例のように書いてください。

数字は右づめに  
 1 2 3 4 5 6 7 8 9 0  
 はねない 上につきぬける 角をつける

記入は黒の鉛筆で  
 たて線 1本 すきまをあける とじる

<b>世帯員の数について</b> (調査票が2枚以上にわたる場合は1枚目のみに記入してください)			
<b>1 世帯員の数</b> 総数 男 女 ・ふだん住んでいる人全員 の人数を書いてください			
<b>世帯員全員について</b> (世帯員ごとに記入してください)			
<b>2 氏名及び男女の別</b> ・ふだん住んでいる人をもれなく書いてください			
1 (氏名)	2 (氏名)	3 (氏名)	4 (氏名)
男 女	男 女	男 女	男 女
<b>3 世帯主との続柄</b> ・世帯主の配偶者(妻又は夫)の祖父母・兄弟姉妹はそれぞれ祖父母・兄弟姉妹に含めます ・孫の配偶者は孫に兄弟姉妹の配偶者は兄弟姉妹に含めます			
世帯主世帯主又は子の世帯主の配偶者の父母 子の世帯主の配偶者の父母 世帯主の配偶者の父母 世帯主の配偶者の父母			
孫 祖父母 兄弟姉妹 他の住み込み親族の居人 その他 孫 祖父母 兄弟姉妹 他の住み込み親族の居人 その他 孫 祖父母 兄弟姉妹 他の住み込み親族の居人 その他 孫 祖父母 兄弟姉妹 他の住み込み親族の居人 その他			
<b>4 出生の年月</b> ・該当する元号又は西暦に記入したうえで年及び月を書いてください ・年を西暦で記入する場合は西暦年の4ケタを書いてください			
明治 大正 昭和 平成 西暦 明治 大正 昭和 平成 西暦 明治 大正 昭和 平成 西暦 明治 大正 昭和 平成 西暦			
<b>5 配偶者の有無</b> ・届出の有無に関係なく記入してください			
未婚(独居などを含む) 配偶者あり 死別 離別 未婚(独居などを含む) 配偶者あり 死別 離別 未婚(独居などを含む) 配偶者あり 死別 離別 未婚(独居などを含む) 配偶者あり 死別 離別			
<b>6 国籍</b> ・外国の場合は 国名も書いてください			
日本 外国 (国名) 日本 外国 (国名) 日本 外国 (国名) 日本 外国 (国名)			
<b>7 現在の場所に 住んでいる期間</b> ・生まれてから引き続き現在の場所に住んでいる場合は出生時から記入してください			
出生時から 以外 出生時から 以外 出生時から 以外 出生時から 以外			
出生時 1年 5年 10年 20年以上 出生時 1年 5年 10年 20年以上 出生時 1年 5年 10年 20年以上 出生時 1年 5年 10年 20年以上			
ウラ側へ 8欄へ ウラ側へ 8欄へ ウラ側へ 8欄へ ウラ側へ 8欄へ			
<b>8 5年前(平成20年6月20日)にはどこに住んでいましたか</b> ・平成20年6月20日より後に生まれた人については出生後にふだん住んでいた場所を記入してください ・5年前に同じ市内の他の区に住んでいた場合は他の区・市町村に記入してください ・他の区・市町村の場合は都道府県・市区町村名も書いてください(東京都区部と政令指定都市の場合は区名まで)			
現在と同じ区・市町村内の他の場所 現在と同じ区・市町村内の他の場所 現在と同じ区・市町村内の他の場所 現在と同じ区・市町村内の他の場所			
(住んでいた場所を記入) (左づめで記入) (住んでいた場所を記入) (左づめで記入) (住んでいた場所を記入) (左づめで記入) (住んでいた場所を記入) (左づめで記入)			

調査票の記入のしかたを参照して太わくの中に記入してください

世帯では 下の欄(太枠の外)には記入しないでください

ウラ側(第2面)にも記入してください

住宅の建て方	1 戸建 長屋建(テラスハウスを含む)	2 共同住宅	3 その他	4 この世帯の住宅がある階	建物全体の総数
世帯の種類	一般世帯(一人世帯 会社等の社員寮の入居者を含む)	学校の寮・寄宿舎の学生・生徒	病院・療養所の入院者	老人ホーム等の社会施設の入居者	その他

市区町村コード 調査区番号 世帯番号 この世帯の調査票のうち 枚目

事務使用欄 行 1

こちらは、ウラ側です  
オモテ側から記入してください

<p>6月13日から19日 9までの1週間に仕事を しましたか</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>仕事とは収入を伴う 仕事をいい、自家営業 (農業や店の仕事など)の 手伝いや内職・パートタイム・ アルバイトも含めます</li> <li>通学には予備校・専門学校 などに通っている場合も 含めます</li> <li>幼稚園又は保育所(保育園) に通っている場合はその他に 記入します</li> </ul>	<p>主に仕事 ○ 家事などのほか仕事 ○ 通学のかたわら仕事 ○ 少しも仕事をしなかった人</p> <p>仕事を休んでいた ○ 仕事を探していた ○ 家事 ○ 通学 ○ その他(幼児・高齢など) ○</p>	<p>主に仕事 ○ 家事などのほか仕事 ○ 通学のかたわら仕事 ○ 少しも仕事をしなかった人</p> <p>仕事を休んでいた ○ 仕事を探していた ○ 家事 ○ 通学 ○ その他(幼児・高齢など) ○</p>	<p>主に仕事 ○ 家事などのほか仕事 ○ 通学のかたわら仕事 ○ 少しも仕事をしなかった人</p> <p>仕事を休んでいた ○ 仕事を探していた ○ 家事 ○ 通学 ○ その他(幼児・高齢など) ○</p>
---	--	--	--

就業者・通学者について (・仕事をしている場所又は通学している学校の場所について記入してください  
・9欄で仕事を休んでいたに記入した人は10~13欄にその休んでいた仕事について記入してください)

<p>10 従業地又は通学地</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>仕事も通学もしている人は仕事を している場所について記入して ください</li> <li>同じ市内の他の区に通勤・通学 している場合は他の区・ 市町村に記入してください</li> <li>他の区・市町村の場合は 都道府県・市区町村名も 書いてください(東京都 区部と政令指定都市の 場合は区名まで)</li> </ul>	<p>自宅(住み込みを含む) ○ 同じ区・市町村 ○ 他の区・市町村 ○</p> <p>(通勤・通学の 場所を記入) (左づめで記入)</p>	<p>自宅(住み込みを含む) ○ 同じ区・市町村 ○ 他の区・市町村 ○</p> <p>(通勤・通学の 場所を記入) (左づめで記入)</p>	<p>自宅(住み込みを含む) ○ 同じ区・市町村 ○ 他の区・市町村 ○</p> <p>(通勤・通学の 場所を記入) (左づめで記入)</p>
--	---	---	---

就業者について (9欄で通学に記入した人は11~13欄には記入の必要はありません)

<p>11 勤めか 自営かの別</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>労働者派遣事業所の派遣 社員とは労働者派遣法に 基づいて派遣されている人を いいます</li> <li>パート・アルバイト・その他には 契約社員 嘱託なども含めます</li> <li>自営業主とは個人で事業を 経営している人(農家などを 含む)や自由業の人をいいます</li> </ul>	<p>雇われている人</p> <p>正規の職員・従業員 ○ 労働者派遣事業所のアルバイト・派遣社員 ○ パート・アルバイト・その他 ○</p> <p>自営業主</p> <p>会社などの役員 ○ 雇人あり ○ 雇人なし ○</p> <p>家族従業員 ○ 家族 ○ 家庭内の賃仕事(内職) ○</p>	<p>雇われている人</p> <p>正規の職員・従業員 ○ 労働者派遣事業所のアルバイト・派遣社員 ○ パート・アルバイト・その他 ○</p> <p>自営業主</p> <p>会社などの役員 ○ 雇人あり ○ 雇人なし ○</p> <p>家族従業員 ○ 家族 ○ 家庭内の賃仕事(内職) ○</p>	<p>雇われている人</p> <p>正規の職員・従業員 ○ 労働者派遣事業所のアルバイト・派遣社員 ○ パート・アルバイト・その他 ○</p> <p>自営業主</p> <p>会社などの役員 ○ 雇人あり ○ 雇人なし ○</p> <p>家族従業員 ○ 家族 ○ 家庭内の賃仕事(内職) ○</p>
---	--	--	--

<p>12 勤め先・業主などの 名称及び事業の内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>仕事をしている事業所 (本社 支店 営業所 工場 商店など)の名称 を書いてください (官公庁は課名まで)</li> <li>その事業所で主に営ま れている事業の内容を くわしく書いてください</li> <li>労働者派遣事業所の 派遣社員は派遣先 (実際に仕事をしている 事業所)について書いて ください</li> </ul>	12欄と13欄は「調査票の記入のしかた」の8~11ページの書き方の例を参考にしくわしく書いてください		
---	--	--	--

<p>13 本人の仕事の内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>本人が実際にしている主な 仕事の内容をくわしく 書いてください</li> </ul>			
--	--	--	--

住居について (調査票が2枚以上にわたる場合は1枚目のみに記入してください)

<p>14 住居の種類</p> <p>持家 ○ 都道府県・市区町村営の賃貸住宅 ○ 都市再生機構・公社等の賃貸住宅 ○ 民営の賃貸住宅 ○ 給与住宅(社宅・公務員住宅など) ○ 住宅に間借り ○ 会社等の独立寮・寄宿舎 ○ その他 ○</p> <p>15欄にも記入</p>	<p>15 住宅の床面積の合計(延べ面積)</p> <p>(小数点以下は四捨五入)</p> <p>居室のほか 玄関・台所・トイレ・浴室・ 廊下・押し入れなどの床面積も含めます</p> <p>営業用の部分及び他の世帯の使用部分は 除いてください</p> <p>平方メートル</p> <p>又は 坪</p>
--	---

電話番号: \_\_\_\_\_ (わからないことがあった場合 問い合わせに利用させていただきます)

ご記入ありがとうございました 2

平成27年国勢調査第2次試験調査 調査票(乙)



一般統計調査

平成27年国勢調査  
第2次試験調査

調査票乙

平成25年6月20日  
総務省統計局



この調査は、統計法に基づき政府が実施する統計調査です。秘密の保護には万全を期していますので、ありのままを記入してください。

○黒の鉛筆で記入し、間違えた場合は、消しゴムできれいに消してください。  
○記入欄が○の場合は、当てはまる○を●のようにぬりつぶしてください。  
○数字を記入する場合は、右の例のように書いてください。

数字は右づめに  
記入は黒の鉛筆で  
たて線  
すきまをあける  
とじる  
はねない  
上につきぬける  
角をつける

世帯員の数について(調査票が2枚以上にわたる場合は1枚目のみに記入してください)			
1 世帯員の数 ●ふだん住んでいる人全員			
総数	男	女	
人	人	人	人
世帯員全員について(世帯員ごとに記入してください)			
2 氏名及び男女の別			
●ふだん住んでいる人を もれなく書いてください			
1	2	3	
(氏名)	(氏名)	(氏名)	
男	女	男	女
3 世帯主との続き柄			
●世帯主の配偶者(妻又は夫)の祖父・兄弟姉妹はそれぞれ祖父・兄弟姉妹に含めます			
●孫の配偶者は孫に 兄弟姉妹の配偶者は兄弟姉妹に含めます			
世帯主又は代表者	世帯主の子	子の配偶者	世帯主の父母
世帯主の配偶者	孫	祖父	兄弟姉妹
他の親族	住み込みの雇人	その他	
4 出生の年月			
●該当する元号又は西暦に記入したうえで年及び月を書いてください			
●年を西暦で記入する場合は西暦年の4ケタを書いてください			
明治	大正	昭和	平成
西暦	年	月	
5 配偶者の有無			
●届出の有無に関係なく記入してください			
未婚(幼児などを含む)	配偶者あり	死別	離別
6 国籍			
●外国の場合は 国名も書いてください			
日本	外国	(国名)	
7 現在の場所に住んでいる期間			
●生まれてから引き続き現在の場所に住んでいる場合は出生時から のみに記入してください			
出生時から	5年未満	10年未満	20年以上
出生時から	5年未満	10年未満	20年以上
8 5年前(平成20年6月20日)にはどこに住んでいましたか			
●平成20年6月20日より後に生まれた人については出生後にふだん住んでいた場所を記入してください			
●5年前に同じ市内の他の区に住んでいた場合は他の区・市町村に記入してください			
●他の区・市町村の場合は 都道府県・市区町村名も書いてください(東京都区部と政令指定都市の場合は区名まで)			

「調査票の記入のしかた」を参照して  
太わくの中に記入してください

世帯では 下の欄(太枠の外)には記入しないでください

住宅の建て方	1 戸建	2 長屋建(テラスハウスを含む)	3 共同住宅	4 その他	この世帯の住宅がある階	建物全体の階数
	○	○	○	○	階	階

世帯の種類

一般世帯(一人世帯、会社等の社員寮の入居者を含む)	学校の寮・寄宿舎の学生・生徒	病院・療養所の入院者	老人ホーム等の社会施設の入居者	その他
○	○	○	○	○

市区町村コード	調査区番号	世帯番号	この世帯の調査票	事務使用欄
000000	000000	000000	枚のうち	行

こちらは、ウラ側です  
オモテ側から記入してください

9 6月13日から19日までの1週間に仕事をしましたか

- 仕事とは、収入を伴う仕事をいい 自家営業(農業や店の仕事など)の手伝いや内職・パートタイム・アルバイトも含めます
- 通学には、予備校・専門学校などに通っている場合も含めます
- 幼稚園又は保育所(保育園)に通っている場合は、その他に記入します

1

主に仕事

家事などのほか仕事

通学のかたわら仕事

少しも仕事をしなかった人

仕事を休んでいた

仕事を探していた

家事

通学

その他(幼児・高齢者など)

14欄へ

2

主に仕事

家事などのほか仕事

通学のかたわら仕事

少しも仕事をしなかった人

仕事を休んでいた

仕事を探していた

家事

通学

その他(幼児・高齢者など)

14欄へ

3

主に仕事

家事などのほか仕事

通学のかたわら仕事

少しも仕事をしなかった人

仕事を休んでいた

仕事を探していた

家事

通学

その他(幼児・高齢者など)

14欄へ

就業者・通学者について (仕事をしている場所又は通学している学校の場所について記入してください。9欄で仕事を休んでいたに記入した人は10~13欄にその休んでいた仕事について記入してください)

10 従業地又は通学地

- 仕事も通学もしている人は、仕事をしている場所について記入してください
- 同じ市内の他の区に通勤・通学している場合は、他の区・市町村に記入してください
- 他の区・市町村の場合は、都道府県・市区町村名も書いてください(東京都区部と政令指定都市の場合は区名まで)

自宅(住み込みを含む)

同じ区・市町村

他の区・市町村

(通勤・通学の場所を記入)

(左づめで記入)

自宅(住み込みを含む)

同じ区・市町村

他の区・市町村

(通勤・通学の場所を記入)

(左づめで記入)

自宅(住み込みを含む)

同じ区・市町村

他の区・市町村

(通勤・通学の場所を記入)

(左づめで記入)

就業者について (9欄で通学に記入した人は11~13欄には記入の必要はありません)

11 勤めか 自営かの別

- 労働者派遣事業所の派遣社員とは、労働者派遣法に基づいて派遣されている人をいいます
- パート・アルバイト・その他には、契約社員 嘱託なども含めます
- 自営業主とは、個人で事業を営んでいる人(農家などを含む)や自由業の人をいいます

雇われている人

正規の職員・従業員

労働者派遣事業所の派遣社員

パート・アルバイト・その他

自営業主

会社などの役員

雇人あり

雇人なし

家族従業者

家庭内の責任者(内職)

雇われている人

正規の職員・従業員

労働者派遣事業所の派遣社員

パート・アルバイト・その他

自営業主

会社などの役員

雇人あり

雇人なし

家族従業者

家庭内の責任者(内職)

雇われている人

正規の職員・従業員

労働者派遣事業所の派遣社員

パート・アルバイト・その他

自営業主

会社などの役員

雇人あり

雇人なし

家族従業者

家庭内の責任者(内職)

12 勤め先・業主などの名称及び事業の内容

- 仕事をしている事業所(本社 支店 営業所 工場 商店など)の名称を書いてください(官公庁は課名まで)
- その事業所で主に営まれている事業の内容をくわしく書いてください
- 労働者派遣事業所の派遣社員は、派遣先(実際に仕事をしている事業所)について書いてください

12欄と13欄は「調査票の記入のしかた」の8~11ページの書き方の例を参考にしてくわしく書いてください

13 本人の仕事の内容

- 本人が実際にしている主な仕事の内容をくわしく書いてください

住居について (調査票が2枚以上にわたる場合は1枚目のみに記入してください)

14 住居の種類

持家

都道府県・市区町村営の賃貸住宅

都市再生機構・公社等の賃貸住宅

民営の賃貸住宅

給与住宅(社宅・公務員住宅など)

住宅に間借り

会社等の独身寮・寄宿舎

その他

15欄にも記入

15 住宅の床面積の合計(延べ面積) (小数点以下は四捨五入)

居室のほか、玄関・台所・トイレ・浴室・廊下・押し入れなどの床面積も含めます

営業用の部分及び他の世帯の使用部分は除いてください

平方メートル

千 百 十 一

又は

千 百 十 一 坪

電話番号

(わからないことがあった場合、問い合わせて利用させていただきます)

ご記入ありがとうございました

## Ⅱ 調査票の集計結果

### 第1 調査票の回収状況

#### 1 全体の回収状況

調査対象世帯は、8,389世帯となっており、これを回収方法別にみると、調査員回収は2,486世帯（調査対象世帯に占める割合29.6%）、郵送回収は2,132世帯（同25.4%）、オンライン回収は1,951世帯（23.3%）、聞き取り調査は1,779世帯（21.2%）となっている。

また、今回の試験調査では集計対象に含めていないが、フォローアップ回収後に提出のあった世帯は378世帯となっており、集計対象の調査票を含む全体の回収世帯数（8,767世帯）に占める割合は4.3%となっている。 《表Ⅱ－1》

表Ⅱ－1 調査市区町、回収方法別世帯数及び割合

回答方法									(再掲)	
		総数 【A】	当初回収 1)				フォローアップ回収 (郵送)	聞き取り調査 2)	回収総数 【A+B】	フォローアップ回収後 (郵送) 【B】
			計	調査員	郵送	オンライン				
調査市区町										
(実数)	総数	8,389	6,569	2,486	2,132	1,951	41	1,779	8,767	378
	秋田県 秋田市	697	502	152	190	160	5	190	731	34
	横手市	567	543	275	166	102	0	24	595	28
	東京都 中央区	743	396	55	209	132	3	344	793	50
	足立区	571	410	88	223	99	0	161	609	38
	石川県 白山市	646	563	126	193	244	0	83	670	24
	中能登町	518	513	426	-	87	0	5	522	4
	京都府 京都市	578	351	37	160	154	10	217	617	39
	八幡市	593	481	168	185	128	13	99	608	15
	広島県 広島市	564	385	33	168	184	4	175	585	21
	尾道市	518	443	142	169	132	0	75	532	14
	香川県 高松市	697	486	64	244	178	3	208	764	67
	東かがわ市	509	502	420	-	82	1	6	527	18
	大分県 大分市	588	421	124	141	156	0	167	607	19
佐伯市	600	573	376	84	113	2	25	607	7	
(構成比)	総数	100.0	78.3	29.6	25.4	23.3	0.5	21.2	(100.0)	(4.3)
	秋田県 秋田市	100.0	72.0	21.8	27.3	23.0	0.7	27.3	(100.0)	(4.7)
	横手市	100.0	95.8	48.5	29.3	18.0	0.0	4.2	(100.0)	(4.7)
	東京都 中央区	100.0	53.3	7.4	28.1	17.8	0.4	46.3	(100.0)	(6.3)
	足立区	100.0	71.8	15.4	39.1	17.3	0.0	28.2	(100.0)	(6.2)
	石川県 白山市	100.0	87.2	19.5	29.9	37.8	0.0	12.8	(100.0)	(3.6)
	中能登町	100.0	99.0	82.2	-	16.8	0.0	1.0	(100.0)	(0.8)
	京都府 京都市	100.0	60.7	6.4	27.7	26.6	1.7	37.5	(100.0)	(6.3)
	八幡市	100.0	81.1	28.3	31.2	21.6	2.2	16.7	(100.0)	(2.5)
	広島県 広島市	100.0	68.3	5.9	29.8	32.6	0.7	31.0	(100.0)	(3.6)
	尾道市	100.0	85.5	27.4	32.6	25.5	0.0	14.5	(100.0)	(2.6)
	香川県 高松市	100.0	69.7	9.2	35.0	25.5	0.4	29.8	(100.0)	(8.8)
	東かがわ市	100.0	98.6	82.5	-	16.1	0.2	1.2	(100.0)	(3.4)
	大分県 大分市	100.0	71.6	21.1	24.0	26.5	0.0	28.4	(100.0)	(3.1)
佐伯市	100.0	95.5	62.7	14.0	18.8	0.3	4.2	(100.0)	(1.2)	

1) 石川県中能登町及び香川県東かがわ市については、当初回収において、郵送による回収は実施していない。

2) 調査票を回収できず、聞き取り調査を行った世帯を指す。

参考表 平成27年国勢調査第2次試験調査における市区町別の調査実施地域の特性

都府県	市区町	調査地域の特性			
		オートロックマンションなど民営の賃貸住宅が多い地域（単身者が多い地域を除く）	ワンルームマンションなど単身者が居住する住宅の多い地域	一戸建の多い地域	その他の地域
秋田県	秋田市	○	○		
	横手市			○	○
東京都	中央区	○	○		
	足立区	○	○	○	
石川県	白山市	○		○	○
	中能登町			○	○
京都府	京都市（左京区）	○	○		○
	八幡市		○	○	○
広島県	広島市（安佐南区）	○	○		○
	尾道市		○	○	○
香川県	高松市	○	○		
	東かがわ市			○	○
大分県	大分市	○	○		○
	佐伯市	○		○	○

## 2 調査区の地域特性別の回収状況

調査区の地域特性別に回収率をみると、「オートロックマンションなど民営の賃貸住宅が多い地域」、「ワンルームマンションなど単身者が居住する住宅の多い地域」では、郵送回収の割合がそれぞれ29.1%、29.5%と最も高く、「一戸建の多い地域」、「その他の地域」では、調査員回収の割合がそれぞれ60.1%、35.1%と最も高くなっている。また、オンライン回答については、すべての地域特性で2割を超えている。

《表Ⅱ－2》

表Ⅱ－2 調査地域の特性、回答方法別世帯数及び割合

(世帯, %)

調査地域の特性		回答方法	総数	回答世帯			聞き取り調査 1)	
				合計	調査員	郵送		オンライン
(実数)	総数		8,389	6,610	2,486	2,173	1,951	1,779
	オートロックマンションなど民営の賃貸住宅が多い地域		2,333	1,709	417	679	613	624
	ワンルームマンションなど単身者が居住する住宅の多い地域		2,151	1,311	223	634	454	840
	一戸建の多い地域		1,902	1,846	1,143	298	405	56
	その他の地域 2)		2,003	1,744	703	562	479	259
(構成比)	総数		100.0	78.8	29.6	25.9	23.3	21.2
	オートロックマンションなど民営の賃貸住宅が多い地域		100.0	73.3	17.9	29.1	26.3	26.7
	ワンルームマンションなど単身者が居住する住宅の多い地域		100.0	60.9	10.4	29.5	21.1	39.1
	一戸建の多い地域		100.0	97.1	60.1	15.7	21.3	2.9
	その他の地域 2)		100.0	87.1	35.1	28.1	23.9	12.9

1) 調査票を回収できず、聞き取り調査を行った世帯を指す。

2) 具体的には、上記以外の一戸建て、共同住宅が混在した地域。



### 3 世帯人員別の回収状況

世帯人員別の回収率をみると、世帯人員が2人以上の世帯で9割以上となっている。一方、単身世帯では、59.9%となっている。 《表Ⅱ-3》

表Ⅱ-3 世帯人員，回収方法別世帯数及び割合

(世帯, %)

世帯人員		回答方法					
		世帯総数	回答世帯			聞き取り調査	
	合計		調査員	郵送	オンライン		
(実数)	総数	8,389	6,610	2,486	2,173	1,951	1,779
	単身世帯	3,573	2,142	728	842	572	1,431
	世帯人員2人	2,078	1,910	809	600	501	168
	世帯人員3人	1,286	1,191	437	361	393	95
	世帯人員4人	951	895	318	263	314	56
	世帯人員5人以上	501	472	194	107	171	29
(構成比)	総数	100.0	78.8	29.6	25.9	23.3	21.2
	単身世帯	100.0	59.9	20.4	23.6	16.0	40.1
	世帯人員2人	100.0	91.9	38.9	28.9	24.1	8.1
	世帯人員3人	100.0	92.6	34.0	28.1	30.6	7.4
	世帯人員4人	100.0	94.1	33.4	27.7	33.0	5.9
	世帯人員5人以上	100.0	94.2	38.7	21.4	34.1	5.8

#### 4 オンライン回収の状況

##### (1) 市区町別のアクセス状況

- オンライン調査システムへのログイン（アクセス）した世帯は、2,332世帯（総世帯数に占める割合27.8%）となっている。また、実際にオンライン回答をした世帯は1,951世帯（同23.3%）、ログインをしたが回答まで至らなかった世帯は381世帯（同4.5%）などとなっている。

なお、ログイン数（同一調査対象者からの複数ログインを含む）に占める回答者の割合は83.7%となっており、ログインした世帯の8割以上から回答を得ている。 《表Ⅱ－4》

**表Ⅱ－4 調査市区町別オンライン調査システムへのログイン・回答数及び割合**

(件, %)

	(実数)				(構成比)			
	世帯数	ログイン数	回答数	ログイン後未回答数	世帯数	ログイン数	回答数	ログイン後未回答数
総数	8,389	2,332	1,951	381	100.0	27.8	23.3	4.5
秋田県 秋田市	697	194	160	34	100.0	27.8	23.0	4.9
横手市	567	136	102	34	100.0	24.0	18.0	6.0
東京都 中央区	743	144	132	12	100.0	19.4	17.8	1.6
足立区	571	125	99	26	100.0	21.9	17.3	4.6
石川県 白山市	646	285	244	41	100.0	44.1	37.8	6.3
中能登町	518	104	87	17	100.0	20.1	16.8	3.3
京都府 京都市左京区	578	177	154	23	100.0	30.6	26.6	4.0
八幡市	593	156	128	28	100.0	26.3	21.6	4.7
広島県 広島市安佐南区	564	223	184	39	100.0	39.5	32.6	6.9
尾道市	518	147	132	15	100.0	28.4	25.5	2.9
香川県 高松市	697	215	178	37	100.0	30.8	25.5	5.3
東かがわ市	509	96	82	14	100.0	18.9	16.1	2.8
大分県 大分市	588	192	156	36	100.0	32.7	26.5	6.1
佐伯市	600	138	113	25	100.0	23.0	18.8	4.2

注) ログイン数は同一調査対象者の重複操作を含む値である。

- 電子調査票の種類別の回答状況を見ると、PC版が1,545件（オンライン回答世帯に占める割合79.2%）、スマートフォン版（以下「スマホ版」という。）が406件（同20.8%）となっている。 《表Ⅱ－5》

**表Ⅱ－5 調査市区町、電子調査票の種類別回答数及び割合**

(件, %)

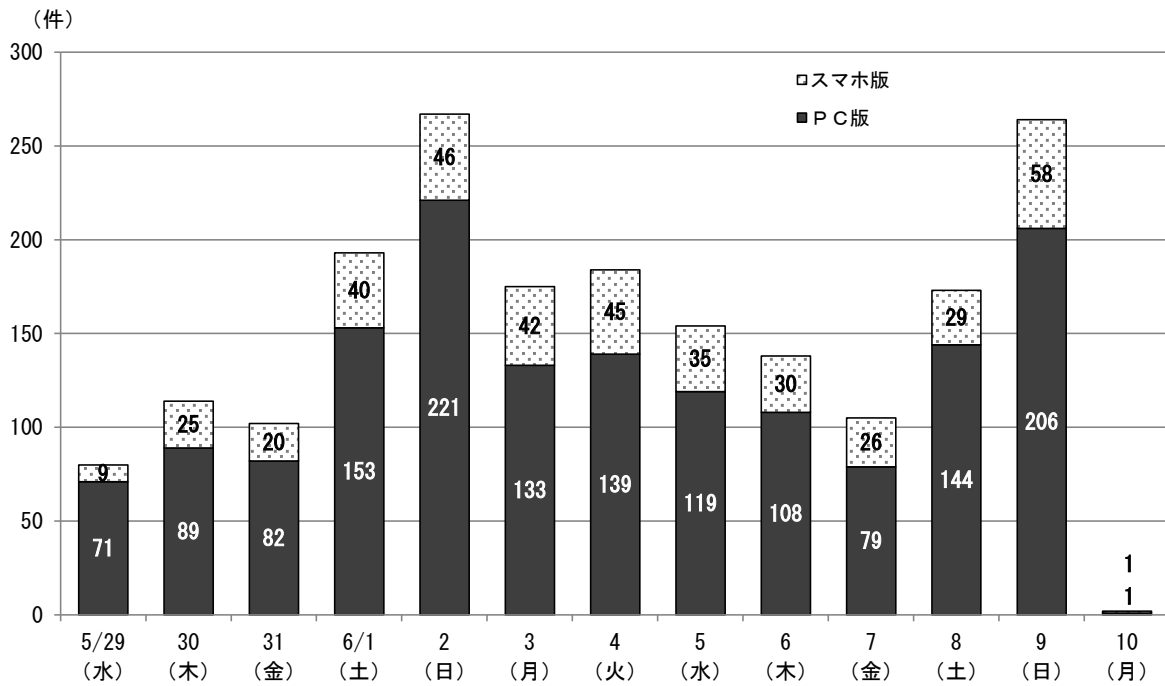
	(実数)			(構成比)		
	総計	PC版	スマホ版	総計	PC版	スマホ版
総数	1,951	1,545	406	100.0	79.2	20.8
秋田県 秋田市	160	115	45	100.0	71.9	28.1
横手市	102	89	13	100.0	87.3	12.7
東京都 中央区	132	116	16	100.0	87.9	12.1
足立区	99	75	24	100.0	75.8	24.2
石川県 白山市	244	203	41	100.0	83.2	16.8
中能登町	87	76	11	100.0	87.4	12.6
京都府 京都市左京区	154	134	20	100.0	87.0	13.0
八幡市	128	100	28	100.0	78.1	21.9
広島県 広島市安佐南区	184	138	46	100.0	75.0	25.0
尾道市	132	110	22	100.0	83.3	16.7
香川県 高松市	178	124	54	100.0	69.7	30.3
東かがわ市	82	72	10	100.0	87.8	12.2
大分県 大分市	156	101	55	100.0	64.7	35.3
佐伯市	113	92	21	100.0	81.4	18.6

(2) オンライン回答の日別の回答状況

オンライン回答のあった1,951世帯を日別にみると、回答期間中の初めての週末（6月1日（土）～2日（日））でピークとなり、以降減少傾向にあったが、回答期間締め切り直前の週末で再度回答数が増加する傾向となっている。

《図Ⅱ－1》

図Ⅱ－1 回答日、電子調査票の種類別回答数



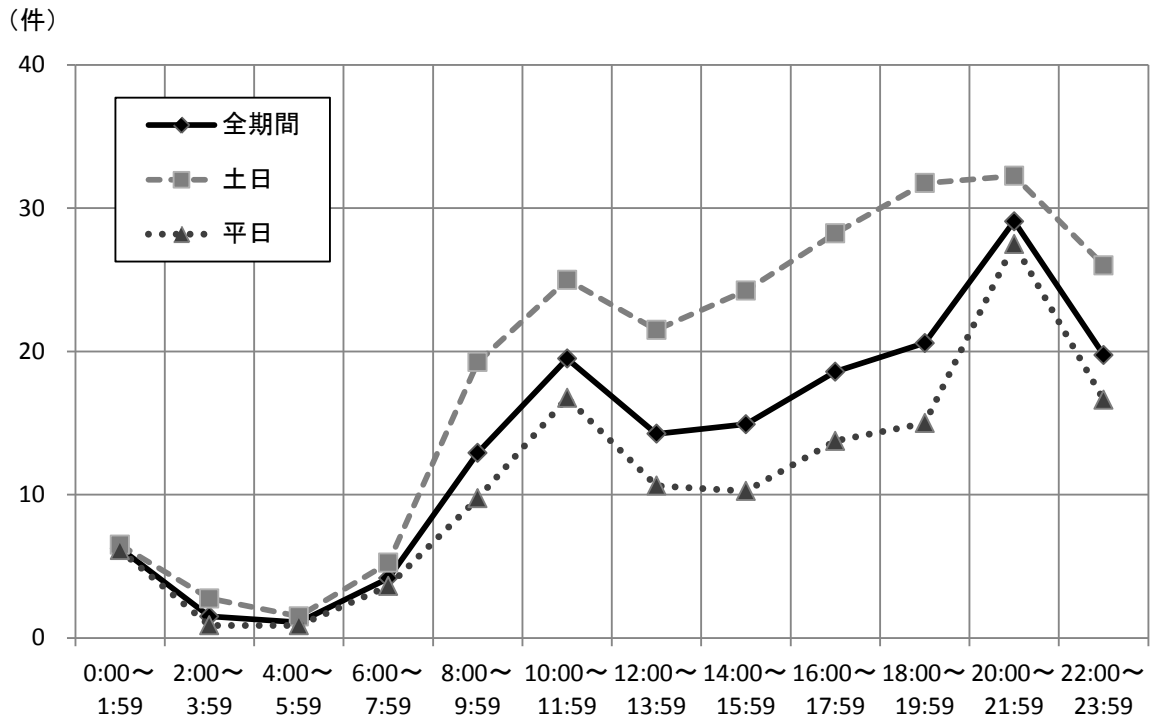
※ 回答期間は5月29日（水）～6月9日（日）の12日間。

6月10日（月）の2件については、6月9日の24：00前にログインし、6月10日にまたがって回答したもの。

(3) オンライン回答の時間帯別の回答状況

オンライン回答のあった世帯を回答時間帯別にみると、早朝（6：00～7：59）から増加していた回答件数は、昼前（10：00～11：59）を境に一旦減少している。午後になると、14：00すぎから徐々に増加し、夜間（20：00～21：59）の時間帯でピークに達している。 《図Ⅱ－2》

図Ⅱ－2 回答曜日、回答時間帯別回答数



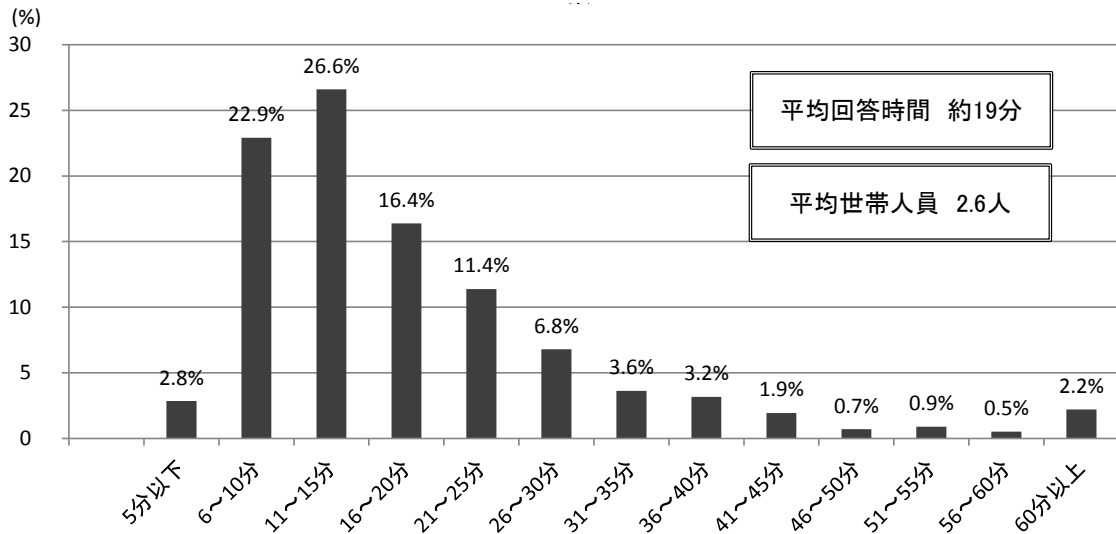
(4) オンライン回答の所要時間別の回答状況

調査世帯がオンライン調査システムにログインしてから回答データを送信するまでに要した時間についてみると、PC版、スマホ版ともに「11～15分」が最も高く、それぞれ26.6%、28.8%となっている。

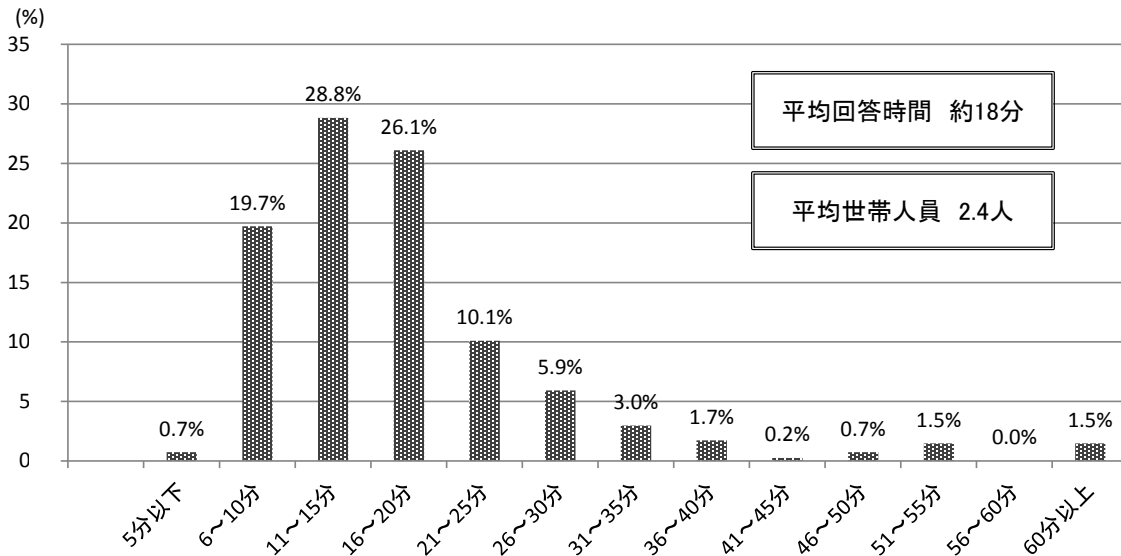
次いでPC版では「6～10分」が22.9%、スマホ版では「16～20分」が26.1%となっている。

《図Ⅱ－3》

図Ⅱ－3 電子調査票の種類，回答所要時間別回答比率  
(PC版)



(スマホ版)



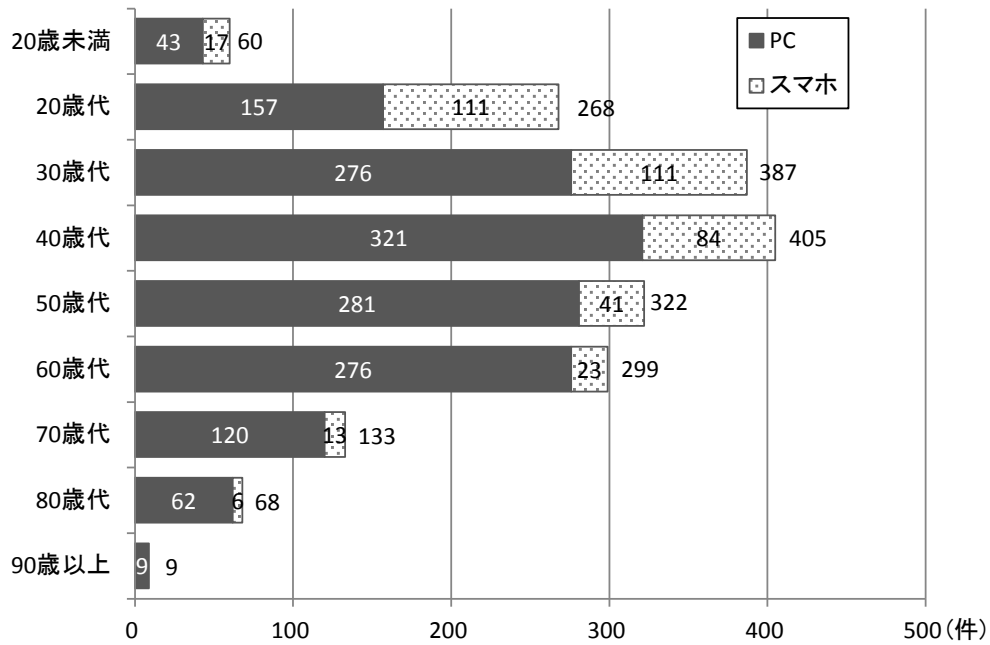
(5) 世帯主の年齢階級別のオンライン回答の状況

世帯主の年齢階級別にオンライン回答の件数をみると、「40歳代」が405件（PC版321件，スマホ版84件）で最も多く，次いで「30歳代」（387件（PC版276件，スマホ版111件）），「50歳代」（322件（PC版281件，スマホ版41件））となっている。

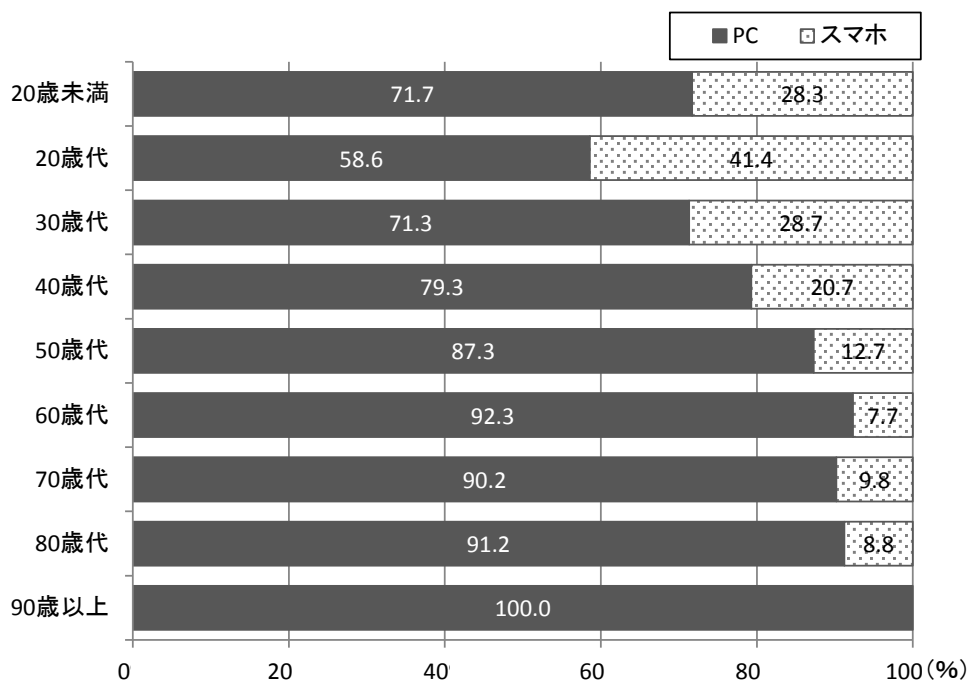
また，これを電子調査票の種類別の割合で見ると，スマホ版は「20歳代」で41.4%，「30歳代」で28.7%，「20歳未満」で28.3%など若年層での割合が高くなっている。

《図Ⅱ－4》

図Ⅱ－4 世帯主の年齢階級，電子調査票の種類別回答数及び割合  
(実数)



(割合)



## 第2 面接の状況

- 調査員が調査票等の配布時に世帯と面接できなかった割合は23.0%となっている。

また、調査地域の特性別にみると、「ワンルームマンションなど単身者が居住する住宅の多い地域」が最も高く、39.7%となっている。 《表Ⅱ－6》

表Ⅱ－6 面接の可否、調査地域の特性別世帯数及び割合

調査地域の特性		(世帯, %)				
		総数	オートロックマンションなど民営の賃貸住宅が多い地域	ワンルームマンションなど単身者が居住する住宅の多い地域	一戸建ての多い地域	その他の地域
面接の可否	総数	8,389	2,333	2,151	1,902	2,003
	配布時に面接できた世帯	6,461	1,658	1,298	1,798	1,707
	配布時に面接できなかった世帯	1,928	675	853	104	296
(構成比)	総数	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
	配布時に面接できた世帯	77.0	71.1	60.3	94.5	85.2
	配布時に面接できなかった世帯	23.0	28.9	39.7	5.5	14.8

- 調査票等の配布時に世帯と面接できた場合と面接できなかった場合について、調査票を回収できなかった世帯（聞き取り調査の世帯）の割合をみると、面接できなかった場合が56.7%と半数以上を占めており、面接できた場合(10.6%)の約5倍となっている。

調査地域の特性別にみると、「オートロックマンションなど民営の賃貸住宅が多い地域」、「一戸建ての多い地域」及び「その他の多い地域」では、調査票等の配布時に世帯と面接できた場合には、9割前後（それぞれ85.9%、97.6%及び93.0%）の世帯から調査票を回収できている。

一方で、調査票等の配布時に世帯と面接できなかった場合の調査票の回収率は、「一戸建ての多い地域」では87.5%となっている。また、「ワンルームマンションなど単身者が居住する住宅の多い地域」では35.4%、「オートロックマンションなど民営の賃貸住宅が多い地域」が42.2%と低い回収率となっている。

《表Ⅱ－7》

表Ⅱ－7 調査票回収の有無、地域特性、調査票等配布時の面接の可否別世帯数及び割合

調査地域の特性 面接の可否		(世帯, %)									
		合計		オートロックマンションなど民営の賃貸住宅が多い地域		ワンルームマンションなど単身者が居住する住宅の多い地域		一戸建ての多い地域		その他の地域	
調査票回収の有無		面接可 2)	面接不可 3)	面接可 2)	面接不可 3)	面接可 2)	面接不可 3)	面接可 2)	面接不可 3)	面接可 2)	面接不可 3)
(実数)	総数	6,461	1,928	1,658	675	1,298	853	1,798	104	1,707	296
	調査票回収あり 1)	5,775	835	1,424	285	1,009	302	1,755	91	1,587	157
	調査票回収なし (聞き取り調査)	686	1,093	234	390	289	551	43	13	120	139
(構成比)	総数	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
	調査票回収あり 1)	89.4	43.3	85.9	42.2	77.7	35.4	97.6	87.5	93.0	53.0
	調査票回収なし (聞き取り調査)	10.6	56.7	14.1	57.8	22.3	64.6	2.4	12.5	7.0	47.0

- 1) オンライン回答を含む。  
2) 調査票配布時に調査員が面接できた世帯  
3) 調査票配布時に調査員が面接できなかった世帯

### 第3 調査票の記入状況

平成27年国勢調査第2次試験調査では、調査票の設計や審査事務等の基礎資料とするため、市区町に提出された調査票の記入状況をありのまま把握することとしており、世帯が調査票に記入した内容については、封入せずに提出された調査票のみ調査員による検査・訂正を行うこととまた、市区町による審査において記入不備（記入漏れ及びダブルマーク）を検出しても直接訂正しないこととしている（市区町による訂正は赤鉛筆での見え消し）。

したがって、この「第3 調査票の記入状況」において掲載している調査票の記入状況については、原則、市区町に提出された調査票に記入された内容をそのまま集計している。

なお、①オンライン回収の世帯、②聞き取り調査の世帯については、集計から除外している。

#### 1 調査項目全体の記入状況

調査項目別に記入状況を見ると、「住宅の床面積の合計」において記入不備のある割合が17.4%と最も高くなっている。

また、回収方法別の記入状況を見ると、ほとんどの調査項目で、調査員回収よりも、郵送回収がやや記入不備の割合が高くなっている。 《表Ⅱ－8》

表Ⅱ－8 調査項目、回収方法別記入内容に不備のある世帯及び世帯員の割合

(%)

調査項目	回収方法 不備の内容	合計									
		合計			(調査員回収)			(郵送回収)			
		不備あり	記入漏れ	マルチ記入	不備あり	記入漏れ	マルチ記入	不備あり	記入漏れ	マルチ記入	
※左の番号は調査項目の番号											
第1面	1 世帯人員	1.4	1.4	-	1.4	1.4	-	2.7	2.7	-	
	2 男女の別	1.1	1.1	0.0	1.0	0.9	0.0	1.3	1.2	0.0	
	3 世帯主との続き柄	2.1	1.9	0.2	1.9	1.8	0.2	2.2	2.0	0.2	
	4 出生の年月（元号・西暦）	2.8	2.7	0.1	3.0	2.8	0.2	2.6	2.6	0.1	
	元号・西暦と年月との整合性	2)	8.7	-	-	7.2	-	-	10.4	-	-
	5 配偶者の有無	1)	4.4	4.3	0.1	4.3	4.2	0.1	4.5	4.5	0.1
	6 国籍	1)	2.2	2.2	0.0	1.8	1.8	0.0	2.6	2.6	0.0
	外国の場合の国名	2)	2.1	-	-	1.8	-	-	2.6	-	-
第2面	7 現在の住居における居住期間	1)	1.7	1.4	0.3	1.8	1.4	0.3	1.6	1.4	0.2
	8 5年前の住居の所在地	1)	2.5	2.4	0.1	2.5	2.3	0.2	2.5	2.5	0.0
	居住期間との整合性	2)	3.3	-	-	3.1	-	-	3.5	-	-
	他の区・市町村の場合の区・市町村名	2)	1.5	-	-	1.7	-	-	1.3	-	-
	9 就業状態	1)	3.6	3.0	0.6	3.1	2.4	0.6	4.2	3.6	0.5
	10 従業地又は通学地	1)	10.5	10.4	0.2	9.1	9.0	0.1	12.4	12.1	0.2
	就業状態との整合性	2)	10.9	-	-	9.4	-	-	12.8	-	-
	他の区・市町村の場合の区・市町村名	2)	8.7	-	-	7.6	-	-	10.1	-	-
調査員欄	11 従業上の地位	1)	7.9	7.4	0.5	7.3	6.9	0.4	8.7	8.0	0.6
	就業状態との整合性	2)	8.3	-	-	7.7	-	-	9.0	-	-
	12 勤め先・業主などの名称	3)	8.7	-	-	7.7	-	-	10.0	-	-
	事業の内容	3)	9.9	-	-	8.9	-	-	11.2	-	-
	13 本人の仕事の内容	3)	9.9	-	-	8.9	-	-	11.1	-	-
	14 住居の種類	1)	6.1	5.9	0.2	4.9	4.8	0.2	7.5	7.3	0.2
	15 住宅の床面積の合計	1)	17.4	14.5	3.0	14.8	11.3	3.5	20.4	18.1	2.3
調査員欄	世帯の種類	1)	6.4	6.4	0.0	5.8	5.8	0.1	7.1	7.1	0.0
	住宅の建て方	1)	4.0	3.9	0.2	3.9	3.6	0.2	4.3	4.2	0.1
	共同住宅の場合の階数	3)	4.0	4.0	-	3.7	3.7	-	4.4	4.4	-

- 1) マーク欄における記入状況（単一マーク/blank/マルチマーク）  
 2) 関係項目との整合性  
 3) フリー記入欄における記入の有無



## 2 世帯員項目の記入状況

### (1) 調査地域の特性別の記入状況

地域特性別の記入状況をみると、「ワンルームマンションなど単身者が居住する住宅の多い地域」が、これ以外の地域よりも、記入不備の割合がやや高くなっている。

《表Ⅱ－9》

表Ⅱ－9 調査項目（世帯員項目）、調査地域の特性別記入内容に不備のある世帯員の割合

調査項目（世帯員項目） ※左の番号は調査項目の番号		調査地域の特性 不備の内容			オートロックマンションなど 民営の賃貸住宅の多い地域			ワンルームマンションなど単身者が 居住する住宅の多い地域			一戸建ての多い地域			その他の地域		
		不備 あり	記入 漏れ	ダブル マーク	不備 あり	記入 漏れ	ダブル マーク	不備 あり	記入 漏れ	ダブル マーク	不備 あり	記入 漏れ	ダブル マーク			
														不備 あり	記入 漏れ	ダブル マーク
第1面	2 男女の別	1)	1.0	1.0	0.0	1.8	1.8	0.0	0.8	0.8	0.1	1.2	1.2	0.0		
	3 世帯主との続き柄	1)	1.5	1.3	0.2	4.1	4.0	0.1	1.9	1.6	0.3	1.9	1.8	0.1		
	4 出生の年月（元号・西暦）	1)	2.5	2.4	0.1	2.9	2.8	0.1	3.0	2.8	0.2	2.8	2.7	0.1		
	元号・西暦と年月との整合性	2)	9.2	-	-	12.2	-	-	7.3	-	-	8.4	-	-		
	5 配偶者の有無	1)	3.5	3.5	0.0	4.5	4.4	0.1	4.9	4.8	0.1	4.4	4.3	0.1		
	6 国籍	1)	1.1	1.1	0.0	3.2	3.2	0.0	2.0	2.0	0.0	2.8	2.8	0.0		
	外国の場合の国名	2)	1.0	-	-	3.2	-	-	2.0	-	-	2.8	-	-		
	7 現在の住居における居住期間	1)	1.1	1.0	0.1	1.7	1.5	0.2	1.7	1.4	0.3	2.2	1.9	0.4		
8 5年前の住居の所在地	1)	3.3	3.1	0.2	2.9	2.8	0.1	1.5	1.4	0.1	2.8	2.8	0.0			
居住期間との整合性	2)	4.0	-	-	3.9	-	-	2.2	-	-	3.8	-	-			
他の区・市町村の場合の区・市町村名	2)	1.7	-	-	0.9	-	-	1.4	-	-	1.8	-	-			
第2面	9 就業状態	1)	3.2	2.7	0.6	4.6	3.9	0.8	3.4	2.8	0.6	3.6	3.1	0.5		
	10 従業地又は通学地	1)	11.0	10.8	0.2	11.8	11.7	0.1	10.2	10.1	0.2	10.0	9.8	0.2		
	就業状態との整合性	2)	11.4	-	-	12.4	-	-	10.7	-	-	10.2	-	-		
	他の区・市町村の場合の区・市町村名	2)	9.2	-	-	9.5	-	-	8.5	-	-	8.2	-	-		
	11 従業上の地位	1)	7.4	6.8	0.7	9.6	8.6	1.0	8.3	7.9	0.5	7.0	6.8	0.2		
	就業状態との整合性	2)	7.9	-	-	10.0	-	-	8.7	-	-	7.4	-	-		
	12 勤め先・業主などの名称	3)	8.6	8.6	-	10.5	10.5	-	9.1	9.1	-	7.5	7.5	-		
事業の内容	3)	9.1	9.1	-	11.6	11.6	-	10.6	10.6	-	9.0	9.0	-			
13 本人の仕事の内容	3)	9.4	9.4	-	11.1	11.1	-	10.8	10.8	-	8.7	8.7	-			

- 1) マーク欄における記入状況（単一マーク/blank/マルチマーク）  
 2) 関係項目との整合性  
 3) フリー記入欄における記入の有無

### (2) 世帯人員別の記入状況

世帯人員別の記入状況をみると、第2面の調査項目で、単身世帯及び世帯人員2人の世帯が、他の世帯よりも、記入不備の割合が高くなっている。

《表Ⅱ－10》

表Ⅱ－10 調査項目（世帯員項目）、世帯人員別記入内容に不備のある世帯員の割合

調査項目（世帯員項目） ※左の番号は調査項目の番号		世帯人員 不備の内容			世帯人員2人の世帯			世帯人員3人の世帯			世帯人員4人の世帯			世帯人員5人以上の世帯			
		不備 あり	記入 漏れ	ダブル マーク	不備 あり	記入 漏れ	ダブル マーク	不備 あり	記入 漏れ	ダブル マーク	不備 あり	記入 漏れ	ダブル マーク	不備 あり	記入 漏れ	ダブル マーク	
																	不備 あり
第1面	2 男女の別	1)	1.3	1.3	0.0	0.7	0.7	0.0	1.0	0.9	0.0	1.1	1.1	0.0	1.6	1.6	0.1
	3 世帯主との続き柄	1)	4.9	4.8	0.1	2.3	1.8	0.5	1.1	1.0	0.0	1.5	1.4	0.1	1.1	1.0	0.1
	4 出生の年月（元号・西暦）	1)	2.3	2.1	0.2	3.4	3.2	0.2	1.8	1.7	0.2	3.1	3.1	0.0	3.4	3.3	0.1
	元号・西暦と年月との整合性	2)	11.0	-	-	9.5	-	-	7.6	-	-	7.9	-	-	7.6	-	-
	5 配偶者の有無	1)	3.0	2.7	0.3	5.9	5.9	0.0	4.4	4.3	0.1	4.9	4.8	0.0	2.5	2.5	0.0
	6 国籍	1)	2.4	2.4	0.0	1.9	1.9	0.0	2.0	2.0	0.0	2.7	2.7	0.0	1.9	1.9	0.0
	外国の場合の国名	2)	2.4	-	-	1.8	-	-	2.0	-	-	2.7	-	-	1.9	-	-
	7 現在の住居における居住期間	1)	2.0	1.8	0.2	1.7	1.6	0.1	2.0	1.6	0.4	2.1	1.7	0.4	0.4	0.2	0.2
8 5年前の住居の所在地	1)	3.6	3.3	0.3	2.1	2.0	0.1	2.1	2.1	0.0	3.4	3.4	0.0	1.3	1.2	0.1	
居住期間との整合性	2)	4.7	-	-	3.1	-	-	3.2	-	-	4.0	-	-	1.5	-	-	
他の区・市町村の場合の区・市町村名	2)	1.7	-	-	1.1	-	-	1.5	-	-	2.3	-	-	0.7	-	-	
第2面	9 就業状態	1)	5.5	5.0	0.5	4.7	3.8	0.9	3.6	3.0	0.5	2.0	1.4	0.6	1.9	1.6	0.3
	10 従業地又は通学地	1)	11.7	11.6	0.1	12.3	12.2	0.1	10.3	10.2	0.1	8.7	8.3	0.4	9.3	9.1	0.2
	就業状態との整合性	2)	12.0	-	-	12.6	-	-	10.8	-	-	9.3	-	-	9.5	-	-
	他の区・市町村の場合の区・市町村名	2)	10.1	-	-	11.3	-	-	8.7	-	-	6.4	-	-	6.4	-	-
	11 従業上の地位	1)	10.2	9.2	1.0	10.8	10.4	0.4	8.3	7.7	0.6	5.2	4.8	0.4	4.2	3.9	0.2
	就業状態との整合性	2)	10.5	-	-	11.1	-	-	9.0	-	-	5.5	-	-	4.4	-	-
	12 勤め先・業主などの名称	3)	9.7	-	-	11.5	-	-	9.6	-	-	5.9	-	-	5.7	-	-
事業の内容	3)	10.7	-	-	12.4	-	-	11.2	-	-	6.9	-	-	7.5	-	-	
13 本人の仕事の内容	3)	10.8	-	-	11.7	-	-	10.9	-	-	7.6	-	-	7.8	-	-	

- 1) マーク欄における記入状況（単一マーク/blank/マルチマーク）  
 2) 関係項目との整合性  
 3) フリー記入欄における記入の有無

(3) 世帯主の年齢階級別の記入状況

世帯主の年齢階級別の記入状況をみると、ほとんどの調査項目で、世帯主年齢60歳以上の世帯が、他の世帯よりも、記入不備の割合が高くなっている。

《表Ⅱ－11》

表Ⅱ－11 調査項目（世帯員項目）、世帯主年齢階級別記入内容に不備のある世帯員の割合

調査項目（世帯員項目） ※左の番号は調査項目の番号		世帯主年齢 不備の内容			40歳未満			40～59歳			60歳以上			不詳		
		不備あり	記入漏れ	ダブルマーク	不備あり	記入漏れ	ダブルマーク	不備あり	記入漏れ	ダブルマーク	不備あり	記入漏れ	ダブルマーク	不備あり	記入漏れ	ダブルマーク
第1面	2 男女の別	1)	0.5	0.5	0.0	0.8	0.8	0.0	1.1	1.0	0.1	2.9	2.9	0.0		
	3 世帯主との続柄	1)	0.2	0.2	0.1	0.4	0.2	0.2	1.1	0.9	0.2	15.4	15.0	0.4		
	4 出生の年月（元号・西暦）	1)	1.0	1.0	0.0	1.3	1.3	0.0	2.4	2.3	0.0	13.1	11.8	1.3		
	元号・西暦と年月との整合性	2)	2.1	-	-	2.5	-	-	3.4	-	-	67.7	-	-		
	5 配偶者の有無	1)	2.9	2.9	0.0	1.9	1.9	0.0	4.9	4.8	0.1	12.1	11.6	0.5		
	6 国籍	1)	1.0	1.0	0.0	1.2	1.2	0.0	2.1	2.1	0.0	7.3	7.3	0.0		
	外国の場合の国名	2)	1.0	-	-	1.2	-	-	2.1	-	-	7.3	-	-		
	7 現在の住居における居住期間	1)	0.5	0.4	0.1	0.6	0.4	0.2	1.8	1.4	0.3	6.7	6.4	0.3		
第2面	8 5年前の住居の所在地	1)	4.5	4.3	0.2	1.4	1.2	0.2	1.4	1.4	0.0	8.1	8.1	0.0		
	居住期間との整合性	2)	4.8	-	-	1.7	-	-	2.5	-	-	9.8	-	-		
	他の区・市町村の場合の区・市町村名	2)	1.9	-	-	0.6	-	-	1.0	-	-	6.0	-	-		
	9 就業状態	1)	1.6	1.0	0.6	1.3	0.8	0.5	4.5	3.9	0.7	8.5	7.9	0.6		
	10 従業地又は通学地	1)	7.4	7.1	0.3	8.2	7.8	0.4	11.1	11.0	0.0	20.3	20.2	0.1		
第2面	就業状態との整合性	2)	7.8	-	-	8.8	-	-	11.4	-	-	20.4	-	-		
	他の区・市町村の場合の区・市町村名	2)	4.9	-	-	5.3	-	-	10.2	-	-	17.8	-	-		
	11 従業上の地位	1)	3.6	3.3	0.3	4.2	3.8	0.4	9.9	9.3	0.5	15.8	15.0	0.8		
	就業状態との整合性	2)	3.9	-	-	4.6	-	-	10.3	-	-	16.2	-	-		
	12 勤め先・業主などの名称	3)	4.4	-	-	4.3	-	-	11.0	-	-	17.0	-	-		
	事業の内容	3)	4.8	-	-	5.9	-	-	12.3	-	-	17.9	-	-		
13 本人の仕事の内容	3)	5.2	-	-	6.5	-	-	11.7	-	-	18.4	-	-			

1) マーク欄における記入状況（単一マーク/blank/マルチマーク）

2) 関係項目との整合性

3) フリー記入欄における記入の有無

(4) 「5年前の住居の所在地」及び「従業地又は通学地」の都道府県・市区町村コードへの格付状況

「5年前の住居の所在地」の都道府県・市区町村名欄に記入があったものについて、都道府県・市区町村コードの格付状況をみると、格付可能の割合は73.4%となっている。

また、「従業地又は通学地」の都道府県・市区町村名欄に記入があったものについて、都道府県・市区町村コードの格付状況をみると、格付可能の割合は79.8%となっている。

《表Ⅱ－12》

表Ⅱ－12 調査項目（世帯員項目）、都道府県・市区町村コードの格付の可否別回答件数及び割合

調査項目		格付の可否 1)	(件, %)	
			総数	格付可 格付不可 2)
5年前の住居の 所在地	(実数)		1,329	976 353
	(構成比)		100.0	73.4 26.6
従業地又は 通学地	(実数)		2,073	1,654 419
	(構成比)		100.0	79.8 20.2

1) 当該調査項目に記入された都道府県・市区町村名を都道府県・市区町村コードに格付できたか否か。

2) 都道府県コードのみ格付できた（市区町村コードは格付できなかった）場合を含む。

(5) 産業分類及び職業分類の格付状況

「勤め先・業主などの名称」、「事業の内容」及び「仕事の内容」に記入があったものについて、産業分類及び職業分類の格付状況をみると、産業分類及び職業分類ともに、全体の約97%が格付可能となっている。 《表Ⅱ－13》

**表Ⅱ－13 調査項目（世帯員項目）、産業分類及び職業分類の格付の可否別回答件数及び割合**

(件, %)

調査項目		格付の可否 1)		
		総数	格付可	格付不可 2)
勤め先・業主などの名称, 事業の内容 ＜産業分類＞	(実数)	5,033	4,874	159
	(構成比)	100.0	96.8	3.2
本人の仕事の内容 ＜職業分類＞	(実数)	5,033	4,874	159
	(構成比)	100.0	96.8	3.2

1) 当該調査項目に記入された内容を産業及び職業の各分類に格付できたか否か。

2) 大分類のみ格付できた（小分類は格付できなかった）場合を含む。

### 3 世帯項目の記入状況

- 「世帯員の数」については、未記入の割合は1.4%となっている。また、記入があった場合の調査世帯一覧の記入内容との照合では、不一致の割合が1.2%となっている。《表Ⅱ-14》

**表Ⅱ-14 世帯員の数の記入の有無，調査世帯一覧との照合，調査世帯一覧の記入状況別世帯数及び割合**

(世帯, %)

世帯員の数の記入の有無 調査世帯一覧との照合 調査世帯一覧の記入状況	総数 【A+B】	記入あり 【A】	(調査世帯一覧との照合)		記入なし 【B】	(調査世帯一覧の記入状況)	
			一致	不一致		記入あり	記入なし
(実数)	6,610	6,517	6,436	81	93	93	0
(構成比)	100.0	98.6	(98.8)	(1.2)	1.4	(100.0)	(0.0)

注1) 構成比のうち、( )付の数値は、「記入あり」に占める割合、「記入なし」に占める割合を示す。

注2) 聞き取り調査票を除く。

- 住居に関する項目の記入不備は、「住居の種類」は6.1%、「住宅の床面積の合計」は17.4%となっている。
- 調査員記入欄の記入不備は、「世帯の種類」6.4%、「住宅の建て方」は4.0%となっている。《表Ⅱ-15》

**表Ⅱ-15 調査項目（世帯記入・調査員記入）別記入内容に不備のある世帯の割合**

(%)

調査項目 ※左の番号は調査項目の番号	不備の内容	不備あり	不備の内容	
			記入漏れ	マルチ記入
自計項目 (世帯記入)	14 住居の種類	6.1	5.9	0.2
	15 住宅の床面積の合計	17.4	14.5	3.0
他計項目 (調査員記入)	世帯の種類	6.4	6.4	0.0
	住宅の建て方	4.0	3.9	0.2
	共同住宅の場合の階数	4.0	4.0	-

## 第4 オンライン調査における回答状況

平成27年国勢調査第2次試験調査におけるオンライン調査の電子調査票には、回答内容のチェック機能が実装されており、参考項目の「電話番号」を除くすべての項目を入力してはじめて回答を送信できるしくみとなっている。したがって、紙媒体の調査票にみられる記入不備（記入漏れ及びダブルマーク）は発生しない。

### 1 オンライン調査における都道府県・市区町村コードの格付状況

「5年前の住居の所在地」及び「従業地又は通学地」における都道府県・市区町村コードへの格付は、すべて（100.0%）可能となっている。 《表Ⅱ-16》

表Ⅱ-16 調査項目、都道府県・市区町村コードの格付の可否別オンライン回答件数及び割合  
(件, %)

格付の可否 1)		総数	格付可	格付不可 2)
調査項目				
5年前の住居の 所在地	(実数)	920	920	0
	(構成比)	100.0	100.0	0.0
従業地又は 通学地	(実数)	1,128	1,128	0
	(構成比)	100.0	100.0	0.0

- 1) 当該調査項目に記入された都道府県・市区町村名を都道府県・市区町村コードに格付できたか否か。  
2) 都道府県コードのみ格付できた（市区町村コードは格付できなかった）場合を含む。

### 2 オンライン調査における産業分類・職業分類の格付状況

「勤め先・業主などの名称」、「事業の内容」及び「仕事の内容」における産業分類・職業分類への格付は、産業分類では99.1%、職業分類では99.2%が可能となっている。 《表Ⅱ-17》

表Ⅱ-17 調査項目、産業分類及び職業分類の格付の可否別オンライン回答件数及び割合  
(件, %)

格付の可否 1)		総数	格付可	格付不可 2)
調査項目				
勤め先・業主などの名 称, 事業の内容 <産業分類>	(実数)	2,640	2,615	25
	(構成比)	100.0	99.1	0.9
本人の仕事の内容 <職業分類>	(実数)	2,640	2,618	22
	(構成比)	100.0	99.2	0.8

- 1) 当該調査項目に記入された内容を産業及び職業の各分類に格付できたか否か。  
2) 大分類のみ格付できた（小分類は格付できなかった）場合を含む。

### Ⅲ 世帯アンケートの集計結果

#### 第1 オンライン回答しなかった世帯

紙媒体でのアンケートは、オンライン回答しなかった5,814世帯を対象としており、このうち2,172世帯から回答（回答率37.4%）があった。

#### 1 回答者について

回答者を男女別にみると、男性が905人（総数に占める割合41.7%）、女性が1,215人（同55.9%）となっている。

また、回答者の割合を年齢階級別にみると、「70歳以上」が30.5%と最も高く、次いで、「60歳代」（25.4%）、「50歳代」（15.8%）などとなっており、年齢層が高いほど高い割合となっている。 《表Ⅲ—1》

表Ⅲ—1 男女、年齢階級別回答者数及び割合

(人, %)

年齢階級	男女				(実数)				(構成比1)				(構成比2)			
	総数	男	女	無記入・不詳	総数	男	女	無記入・不詳	総数	男	女	無記入・不詳				
総数	2,172	905	1,215	52	100.0	41.7	55.9	2.4	100.0	100.0	100.0	100.0				
20歳未満	11	5	6	0	100.0	45.5	54.5	0.0	0.5	0.6	0.5	0.0				
20歳代	114	47	67	0	100.0	41.2	58.8	0.0	5.2	5.2	5.5	0.0				
30歳代	203	57	145	1	100.0	28.1	71.4	0.5	9.3	6.3	11.9	1.9				
40歳代	249	94	155	0	100.0	37.8	62.2	0.0	11.5	10.4	12.8	0.0				
50歳代	343	128	214	1	100.0	37.3	62.4	0.3	15.8	14.1	17.6	1.9				
60歳代	552	263	286	3	100.0	47.6	51.8	0.5	25.4	29.1	23.5	5.8				
70歳以上	663	310	341	12	100.0	46.8	51.4	1.8	30.5	34.3	28.1	23.1				
無記入・不詳	37	1	1	35	100.0	2.7	2.7	94.6	1.7	0.1	0.1	67.3				

## 2 調査票について

### (1) 「調査票の記入のしやすさ」について

- 調査票の記入のしやすさについては、調査票甲では58.0%、調査票乙では65.6%が「記入しやすかった」と回答している。 《表Ⅲ－2》

表Ⅲ－2 男女、調査票の種類、調査票の記入のしやすさ別回答者数及び割合

(人, %)

調査票の種類 1) 調査票の記入のしやすさ		男女	(実数)				(構成比)			
			総数	男	女	不詳	総数	男	女	不詳
第2次試験調査	調査票甲	総数	1,836	770	1,021	45	100.0	100.0	100.0	100.0
		記入しやすかった	1,065	450	604	11	58.0	58.4	59.2	24.4
		記入しにくかった	267	122	136	9	14.5	15.8	13.3	20.0
		どちらともいえない	406	165	230	11	22.1	21.4	22.5	24.4
		無記入・不詳	98	33	51	14	5.3	4.3	5.0	31.1
第2次試験調査	調査票乙	総数	323	130	189	4	100.0	100.0	100.0	100.0
		記入しやすかった	212	91	120	1	65.6	70.0	63.5	25.0
		記入しにくかった	43	18	25	0	13.3	13.8	13.2	0.0
		どちらともいえない	61	19	39	3	18.9	14.6	20.6	75.0
		無記入・不詳	7	2	5	0	2.2	1.5	2.6	0.0
第1次試験調査	調査票甲	総数	3,388	1,372	1,966	50	100.0	100.0	100.0	100.0
		記入しやすかった	2,192	893	1,280	19	64.7	65.1	65.1	38.0
		記入しにくかった	379	171	196	12	11.2	12.5	10.0	24.0
		どちらともいえない	723	279	433	11	21.3	20.3	22.0	22.0
		無記入・不詳	94	29	57	8	2.8	2.1	2.9	16.0

1) 第2次試験調査における調査票甲は4名連記、調査票乙は3名連記、第1次試験調査における調査票甲は4名連記。

- 調査票の記入のしやすさについて、年齢階級別にみると、「記入しやすかった」と回答した割合が調査票甲では「40歳代」が64.0%と最も高く、次いで「50歳代」(62.0%)、「60歳代」(61.1%)などとなっている。一方、調査票乙では回答者数が少ない「20歳未満」を除くと、「50歳代」と「60歳代」が共に68.8%と最も高く、次いで「20歳代」(68.2%)となっている。 《表Ⅲ－3》

表Ⅲ－3 年齢階級、調査票の種類、調査票の記入のしやすさ別回答者数及び割合

(人, %)

調査票の種類 1) 調査票の記入のしやすさ	【第2次試験調査】										【第1次試験調査】				
	調査票甲					調査票乙					調査票甲				
	(実数)	(構成比)				(実数)	(構成比)				(実数)	(構成比)			
年齢階級	総数 2)	総数 2)	記入し やすかつ た	記入しに くかつた	どちらとも いえない	総数 2)	総数 2)	記入し やすかつ た	記入しに くかつた	どちらとも いえない	総数 2)	総数 2)	記入し やすかつ た	記入しに くかつた	どちらとも いえない
総数	1,836	100.0	58.0	14.5	22.1	323	100.0	65.6	13.3	18.9	3,388	100.0	64.7	11.2	21.3
20歳未満	8	100.0	50.0	12.5	37.5	3	100.0	100.0	0.0	0.0	18	100.0	61.1	22.2	16.7
20歳代	91	100.0	48.4	15.4	35.2	22	100.0	68.2	9.1	22.7	191	100.0	60.2	10.5	28.3
30歳代	175	100.0	54.3	12.6	32.6	28	100.0	53.6	17.9	28.6	465	100.0	64.3	7.7	27.3
40歳代	211	100.0	64.0	8.5	25.1	38	100.0	63.2	10.5	26.3	582	100.0	66.3	8.1	24.9
50歳代	292	100.0	62.0	14.7	21.6	48	100.0	68.8	14.6	16.7	615	100.0	63.7	9.4	24.1
60歳代	471	100.0	61.1	12.7	20.8	80	100.0	68.8	8.8	20.0	737	100.0	65.4	12.3	18.5
70歳以上	557	100.0	55.7	18.1	17.2	101	100.0	65.3	17.8	11.9	732	100.0	66.8	15.3	13.7
無記入・不詳	31	100.0	25.8	25.8	12.9	3	100.0	33.3	0.0	66.7	48	100.0	37.5	22.9	20.8

1) 第2次試験調査における調査票甲は4名連記、調査票乙は3名連記、第1次試験調査における調査票甲は4名連記。

2) アンケートの調査事項「調査票の記入のしやすさ」欄の未記入・不詳を含む。

○ さらに、世帯人員別に調査票の様式が記入のしやすさに影響するかどうかをみると、世帯人員4人までの世帯では調査票乙の方が「記入しやすかった」と回答した割合が高くなっている。逆に、「記入しにくかった」割合については、大きな差はなかった。 《表Ⅲ－4》

表Ⅲ－4 世帯人員、調査票の種類、調査票の記入のしやすさ別回答者数及び割合

(人, %)

調査票の種類 1) 調査票の記入のしやすさ	調査票甲					調査票乙				
	(実数)	(構成比)				(実数)	(構成比)			
	総数 3)	総数 3)	記入しやすかった	記入しにくかった	どちらとも いえない	総数 3)	総数 3)	記入しやすかった	記入しにくかった	どちらとも いえない
世帯人員										
総数 2)	1,836	100.0	58.0	14.5	22.1	323	100.0	65.6	13.3	18.9
1人	566	100.0	56.5	16.3	19.8	107	100.0	64.5	12.1	20.6
2人	611	100.0	60.1	12.3	22.4	108	100.0	69.4	13.0	13.9
3人	311	100.0	58.2	13.2	26.0	47	100.0	61.7	12.8	25.5
4人	215	100.0	62.3	15.3	20.5	39	100.0	74.4	15.4	10.3
5人以上	102	100.0	54.9	17.6	26.5	19	100.0	52.6	21.1	26.3

1) 第2次試験調査における調査票甲は4名連記、調査票乙は3名連記。

2) 世帯人員の不詳を含む。

3) アンケートの調査事項「調査票の記入のしやすさ」欄の未記入・不詳を含む。



(2) 調査票が記入しにくかった理由

○ 調査票が「記入しにくかった」と回答した世帯の記入しにくい理由については、調査票甲では「説明部分の文字が小さい」が18.1%と最も高く、次いで、「マークが記入しにくい」が14.6%となっている。

調査票乙では「説明部分の文字が小さい」が20.3%と最も高く、次いで、「記入スペースが小さい」が16.2%、「回答部分の文字が小さい」が14.9%などとなっている。

《表Ⅲ－5》

表Ⅲ－5 調査票の種類，調査票が記入しにくかった理由，年齢階級別回答者の割合

調査票の種類 調査票が記入しにくい理由		年齢階級 (%)							
		総数	20歳未満	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
調査票甲	総数	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
	説明部分の文字が小さい	18.1	33.3	7.1	7.4	24.0	18.9	18.6	19.6
	回答部分の文字が小さい	11.2	0.0	0.0	0.0	4.0	12.2	10.8	14.5
	数字の記入枠が小さい	12.1	0.0	0.0	7.4	4.0	10.8	14.7	14.5
	数字を書き始める最初の枠がわかりにくい	13.0	33.3	42.9	18.5	12.0	13.5	11.8	10.6
	マークが記入しにくい	14.6	33.3	14.3	29.6	8.0	5.4	13.7	17.3
	記入スペースが小さい	13.0	0.0	7.1	11.1	24.0	9.5	12.7	13.4
	調査票の印刷の色が薄い	3.4	0.0	0.0	0.0	8.0	1.4	4.9	3.9
	その他	14.4	0.0	28.6	25.9	16.0	28.4	12.7	6.1
調査票乙	総数	100.0	-	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
	説明部分の文字が小さい	20.3	-	0.0	33.3	25.0	25.0	16.7	17.6
	回答部分の文字が小さい	14.9	-	0.0	0.0	0.0	18.8	16.7	17.6
	数字の記入枠が小さい	13.5	-	0.0	0.0	0.0	18.8	25.0	11.8
	数字を書き始める最初の枠がわかりにくい	9.5	-	0.0	33.3	0.0	6.3	0.0	11.8
	マークが記入しにくい	12.2	-	0.0	16.7	0.0	12.5	0.0	17.6
	記入スペースが小さい	16.2	-	50.0	16.7	0.0	18.8	25.0	11.8
	調査票の印刷の色が薄い	4.1	-	0.0	0.0	0.0	0.0	8.3	5.9
	その他	9.5	-	50.0	0.0	75.0	0.0	8.3	5.9

記入しにくかった理由の「その他」の内容（具体例）

- 「調査票の記入のしかた」などを参考にしたが、自らの世帯に該当するような具体例がなかった。《総論》
- マーク欄は完全に塗りつぶそうとすると大変な労力がかかるので、塗りつぶさなくてもよい、「線を引く」タイプのほうが記入しやすい。《総論》
- 調査項目の「6月13日から19日までの1週間に仕事をしましたか」（就業状態で、『年金生活者』（高齢者）が「その他（幼児・高齢など）」に該当するとは判断できない。《調査項目9欄関係》
- 調査事項の「勤め先・業主などの名称」，「事業の内容」，「本人の仕事の内容」をどのように記入すればよいかわからない。《調査項目12欄，13欄関係》
- 「住宅の床面積の合計」を計算するのが煩雑である。《調査項目15欄関係》

### 3 調査票の提出方法について

#### (1) 調査票を郵送で提出した理由

- 調査票を郵送で提出した世帯について、郵送提出した理由をみると、「調査票の回収日時を調査員と合わせるのが煩わしいから」が26.6%、「郵送提出用封筒があったから」が25.1%となっている。 《表Ⅲ－6》

表Ⅲ－6 郵送提出した理由，年齢階級別回答者の割合

(%)

郵送提出した理由	年齢階級							
	総数	20歳未満	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
総数	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
調査票の回収日時を調査員と合わせるのが煩わしいから	26.6	30.0	30.6	30.9	30.1	26.4	27.6	20.2
調査員に記入内容を見られたくないから	6.7	0.0	5.0	7.4	8.2	8.2	7.1	5.2
調査員の回収の仕事が大変そうだから	14.2	10.0	5.0	10.6	14.8	14.3	16.6	16.7
郵送で提出するものと思ったから	7.3	20.0	6.6	7.8	7.8	3.9	6.6	8.8
郵送提出用封筒があったから	25.1	30.0	28.1	22.1	20.3	26.1	23.7	28.8
郵送するように言われたから	8.6	10.0	9.1	7.4	8.6	9.6	8.9	7.9
その他	6.9	0.0	7.4	10.6	6.6	6.8	5.8	6.4

- 「調査票の回収日時を調査員と合わせるのが煩わしいから」と答えた世帯について、これを「ワンルームマンション」及び「マンション」のオートロック設備の有無別にみると、「オートロックあり」の世帯が「オートロックなし」の世帯に比べて割合が高くなっている。 《表Ⅲ－7》

表Ⅲ－7 郵送提出した理由，住居の形態別回答者の割合

(%)

郵送提出した理由	住居の形態							
	総数	一戸建住宅	アパート	ワンルームマンション		マンション		その他
				オートロックあり	オートロックなし	オートロックあり	オートロックなし	
総数	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
調査票の回収日時を調査員と合わせるのが煩わしいから	26.6	25.4	26.3	34.6	25.6	30.7	26.1	22.4
調査員に記入内容を見られたくないから	6.7	6.7	5.3	5.1	7.7	7.8	9.5	3.4
調査員の回収の仕事が大変そうだから	14.2	16.9	12.0	3.8	15.4	14.2	11.6	10.3
郵送で提出するものと思ったから	7.3	7.0	6.0	10.3	5.1	5.5	10.6	6.9
郵送提出用封筒があったから	25.1	24.6	22.9	29.5	25.6	25.2	27.6	25.9
郵送するように言われたから	8.6	8.6	12.4	6.4	10.3	4.6	8.0	8.6
その他	6.9	6.7	7.1	6.4	7.7	8.3	4.5	13.8

(2) 封筒に入れなくて、そのまま調査員に提出した理由

調査票を封筒に入れなくて、そのまま調査員に提出した世帯の理由については、「調査員に記入内容を確認してほしかったから」が43.5%となっている。次いで、「調査員に記入内容を見られても特に困ることはないから」が30.6%となっている。

《表Ⅲ－8》

表Ⅲ－8 封筒に入れずに提出した理由，男女別回答者の割合

(%)

封筒に入れずに提出した理由	男女	総数	
		男	女
総数		100.0	100.0
調査員に記入内容を確認してほしかったから		43.5	44.9
調査員に記入内容を見られても特に困ることはないから		30.6	25.4
封をして提出できることを知らなかったから		4.1	4.2
封をしないように言われたから		2.6	0.8
その他		12.4	16.1

封筒に入れなくて、そのまま調査員に提出した理由の「その他」の内容（具体例）

- 自分で「調査票の記入のしかた」などを参照しながら記入するよりも、調査員に書いてもらった方が早いから。
- 高齢であるため、自力での記入が困難であったことから、調査員に代筆してもらったから。

(3) オンライン回答しなかった理由

オンライン回答しなかった理由については、「パソコンやスマートフォンなどを  
持っていないから」が27.6%となっている。

年齢階級別にみると、「50歳代」以下の年齢階級では「紙の調査票の方が回答し  
やすいから」の割合が最も高くなっており、「60歳代」以上の年齢階級では「パソ  
コンやスマートフォンを持っていないから」の割合が最も高くなっている。また、  
「20歳未満」では26.7%が「オンラインで回答するのを忘れていた」と回答して  
いる。

《表Ⅲ－9》

表Ⅲ－9 オンライン回答しなかった理由、年齢階級別回答者の割合

(%)

オンライン回答しなかった理由	年齢階級							
	総数	20歳未満	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
総数	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
紙の調査票の方が回答しやすいから	22.8	26.7	28.6	22.5	23.7	24.6	23.3	20.3
パソコンやスマートフォンを持っていないから	27.6	13.3	6.5	7.3	15.8	22.3	30.5	43.9
操作ガイドで推奨された利用環境になかったから	0.5	6.7	0.6	0.0	0.0	0.8	0.8	0.2
インターネットの使い方がわからないから	10.5	13.3	0.6	3.1	4.0	9.4	14.5	14.5
セキュリティ面に不安があるから	5.7	0.0	3.6	11.1	7.6	9.8	5.8	1.5
パソコンの起動が面倒だから	8.4	13.3	14.3	15.6	11.6	10.9	8.6	2.1
途中でやめた	4.2	0.0	6.0	6.2	6.5	2.3	3.1	4.6
スマートフォンでは画面が小さいから	2.0	0.0	6.5	6.9	3.7	1.7	0.8	0.2
インターネット回答の利用案内（調査対象者ID・パスワード）をなくしたから	0.6	0.0	1.2	0.7	0.6	0.6	0.6	0.6
オンライン回答できるのを知らなかったから	2.7	0.0	9.5	4.8	5.4	2.9	1.4	0.8
オンライン回答するのを忘れていたから	3.9	26.7	10.7	7.3	8.2	4.2	2.1	0.6
オンライン回答の画面に接続できなかったから	2.5	0.0	1.8	4.8	3.7	3.8	1.8	1.4
その他	5.7	0.0	8.9	9.3	8.8	6.3	4.0	4.3

(4) オンライン回答を途中でやめた理由

オンライン回答しなかった世帯のうち、(オンライン回答を試みたが)「途中でやめた」と回答した世帯の途中でやめた理由については、「紙の調査票の方がわかりやすかったから」が38.9%となっている。

また、年齢階級別にみると、「20歳代」などの比較的若年層では「エラーが発生して、先に進めなかったから」と回答した割合が高くなっており、「50歳代」以上の年齢層では「紙の調査票の方がわかりやすかったから」と回答した割合が高くなっている。

《表Ⅲ－10》

表Ⅲ－10 オンライン回答を途中でやめた理由、年齢階級別回答者の割合

年齢階級	(%)						
	総数	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
途中でやめた理由							
総数	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
説明資料や画面上の説明がわかりにくかったから	25.4	9.1	16.7	15.2	14.3	25.7	22.9
操作に時間がかかりすぎたから	11.1	9.1	8.3	12.1	7.1	14.3	2.1
エラーが発生して、先に進めなかったから	34.1	63.6	45.8	33.3	28.6	14.3	10.4
紙の調査票の方が、わかりやすかったから	38.9	18.2	8.3	15.2	28.6	28.6	54.2
その他	18.3	0.0	16.7	24.2	21.4	11.4	8.3

## 第2 オンライン回答した世帯

オンラインによる世帯アンケートは、オンライン回答した1,951世帯に依頼しており、このうち1,647世帯から回答（回答率84.4%）があった。

### 1 回答者について

回答者を男女別にみると、男性が899人（総数に占める割合54.6%）、女性が660人（同40.1%）となっている。

また、年齢階級別の回答割合をみると、「30歳代」が22.3%と最も高く、次いで、「40歳代」（22.1%）、「50歳代」（17.9%）などとなっている。 《表Ⅲ－11》

表Ⅲ－11 男女、年齢階級別回答者数及び割合

(人, %)

年齢階級	男女				(実数)				(構成比1)				(構成比2)			
	総数	男	女	不詳	総数	男	女	不詳	総数	男	女	不詳				
総数	1,647	899	660	88	100.0	54.6	40.1	5.3	100.0	100.0	100.0	100.0				
20歳未満	55	29	26	0	100.0	52.7	47.3	0.0	3.3	3.2	3.9	0.0				
20歳代	243	115	127	1	100.0	47.3	52.3	0.4	14.8	12.8	19.2	1.1				
30歳代	367	180	182	5	100.0	49.0	49.6	1.4	22.3	20.0	27.6	5.7				
40歳代	364	212	150	2	100.0	58.2	41.2	0.5	22.1	23.6	22.7	2.3				
50歳代	295	188	102	5	100.0	63.7	34.6	1.7	17.9	20.9	15.5	5.7				
60歳代	188	131	49	8	100.0	69.7	26.1	4.3	11.4	14.6	7.4	9.1				
70歳以上	56	39	16	1	100.0	69.6	28.6	1.8	3.4	4.3	2.4	1.1				
無記入・不詳	79	5	8	66	100.0	6.3	10.1	83.5	4.8	0.6	1.2	75.0				

## 2 オンライン回答について

### (1) 操作が簡単であったか否か

オンライン回答に際し、電子調査票の操作が簡単であったかについては、「簡単であった」が78.9%となっている。

これを年齢階級別にみると、「60歳代」が82.4%と最も高く、次いで「40歳代」が82.1%となっている。なお、「70歳以上」においても約7割（69.6%）が簡単であったと回答している。

《表Ⅲ－12》

表Ⅲ－12 男女、年齢階級、「操作が簡単であったか否か」別回答者数及び割合

男女 年齢階級	(実数)				(構成比)			
	総数	簡単であつた	簡単ではなかつた	どちらでもない	総数	簡単であつた	簡単ではなかつた	どちらでもない
総数 1)	1,647	1,300	148	199	100.0	78.9	9.0	12.1
20歳未満	55	40	8	7	100.0	72.7	14.5	12.7
20歳代	243	192	24	27	100.0	79.0	9.9	11.1
30歳代	367	289	32	46	100.0	78.7	8.7	12.5
40歳代	364	299	18	47	100.0	82.1	4.9	12.9
50歳代	295	228	35	32	100.0	77.3	11.9	10.8
60歳代	188	155	12	21	100.0	82.4	6.4	11.2
70歳以上	56	39	12	5	100.0	69.6	21.4	8.9
無記入・不詳	79	58	7	14	100.0	73.4	8.9	17.7
男	899	707	85	107	100.0	78.6	9.5	11.9
20歳未満	29	20	6	3	100.0	69.0	20.7	10.3
20歳代	115	87	14	14	100.0	75.7	12.2	12.2
30歳代	180	143	13	24	100.0	79.4	7.2	13.3
40歳代	212	172	13	27	100.0	81.1	6.1	12.7
50歳代	188	144	22	22	100.0	76.6	11.7	11.7
60歳代	131	112	5	14	100.0	85.5	3.8	10.7
70歳以上	39	25	11	3	100.0	64.1	28.2	7.7
無記入・不詳	5	4	1	0	100.0	80.0	20.0	0.0
女	660	531	53	76	100.0	80.5	8.0	11.5
20歳未満	26	20	2	4	100.0	76.9	7.7	15.4
20歳代	127	104	10	13	100.0	81.9	7.9	10.2
30歳代	182	144	16	22	100.0	79.1	8.8	12.1
40歳代	150	126	5	19	100.0	84.0	3.3	12.7
50歳代	102	81	12	9	100.0	79.4	11.8	8.8
60歳代	49	37	6	6	100.0	75.5	12.2	12.2
70歳以上	16	13	1	2	100.0	81.3	6.3	12.5
無記入・不詳	8	6	1	1	100.0	75.0	12.5	12.5

1) 総数には男女の不詳を含む。

(2) 平成27年国勢調査におけるオンライン回答希望の有無

平成27年国勢調査（本調査）におけるオンライン回答の希望の有無をみると、「希望する」が85.7%となっている。

これを年齢階級別にみると、「70歳以上」が92.9%と最も高く、次いで60歳代が91.0%となっている。

《表Ⅲ－13》

表Ⅲ－13 男女、年齢階級、平成27年国勢調査におけるオンライン回答希望の有無別回答者数及び割合

(人, %)

男女 年齢階級	(実数)			(構成比)		
	総数	希望する	希望しない	総数	希望する	希望しない
総数 1)	1,647	1,411	236	100.0	85.7	14.3
20歳未満	55	36	19	100.0	65.5	34.5
20歳代	243	189	54	100.0	77.8	22.2
30歳代	367	316	51	100.0	86.1	13.9
40歳代	364	325	39	100.0	89.3	10.7
50歳代	295	260	35	100.0	88.1	11.9
60歳代	188	171	17	100.0	91.0	9.0
70歳以上	56	52	4	100.0	92.9	7.1
無記入・不詳	79	62	17	100.0	78.5	21.5
男	899	777	122	100.0	86.4	13.6
20歳未満	29	15	14	100.0	51.7	48.3
20歳代	115	88	27	100.0	76.5	23.5
30歳代	180	159	21	100.0	88.3	11.7
40歳代	212	188	24	100.0	88.7	11.3
50歳代	188	165	23	100.0	87.8	12.2
60歳代	131	121	10	100.0	92.4	7.6
70歳以上	39	37	2	100.0	94.9	5.1
無記入・不詳	5	4	1	100.0	80.0	20.0
女	660	567	93	100.0	85.9	14.1
20歳未満	26	21	5	100.0	80.8	19.2
20歳代	127	100	27	100.0	78.7	21.3
30歳代	182	153	29	100.0	84.1	15.9
40歳代	150	135	15	100.0	90.0	10.0
50歳代	102	92	10	100.0	90.2	9.8
60歳代	49	44	5	100.0	89.8	10.2
70歳以上	16	15	1	100.0	93.8	6.3
無記入・不詳	8	7	1	100.0	87.5	12.5

1) 総数には男女の不詳を含む。



(3) PC, スマートフォンの所有の有無

オンラインで回答した世帯のPC, スマートフォンの所有の有無をみると, PC・スマホ「どちらも所有している」が51.6%, 「PCのみ所有している」が40.7%, 「スマホのみ所有している」が7.7%となっている。

これを年齢階級別にみると, 「どちらも所有している」割合は「20歳未満」が76.4%と最も高く, 次いで「20歳代」が68.7%となっている。「PCのみ所有している」割合は「70歳以上」が89.3%と最も高く, 次いで「60歳代」が76.1%となっている。また, 「スマホのみ所有している」割合は「20歳代」が14.4%と最も高く, 次いで「30歳代」が11.7%となっている。

《表Ⅲ-14》

表Ⅲ-14 男女, 年齢階級, PC及びスマートフォンの所有の有無別回答者数及び割合

(件, %)

男女 年齢階級	(実数)				(構成比)			
	総数	どちらも 所有して いる	PCのみ 所有して いる	スマホのみ 所有して いる	総数	どちらも 所有して いる	PCのみ 所有して いる	スマホのみ 所有して いる
総数 1)	1,647	850	671	126	100.0	51.6	40.7	7.7
20歳未満	55	42	7	6	100.0	76.4	12.7	10.9
20歳代	243	167	41	35	100.0	68.7	16.9	14.4
30歳代	367	228	96	43	100.0	62.1	26.2	11.7
40歳代	364	211	136	17	100.0	58.0	37.4	4.7
50歳代	295	118	170	7	100.0	40.0	57.6	2.4
60歳代	188	40	143	5	100.0	21.3	76.1	2.7
70歳以上	56	5	50	1	100.0	8.9	89.3	1.8
無記入・不詳	79	39	28	12	100.0	49.4	35.4	15.2
男	899	446	416	37	100.0	49.6	46.3	4.1
20歳未満	29	24	4	1	100.0	82.8	13.8	3.4
20歳代	115	80	27	8	100.0	69.6	23.5	7.0
30歳代	180	113	46	21	100.0	62.8	25.6	11.7
40歳代	212	121	88	3	100.0	57.1	41.5	1.4
50歳代	188	76	109	3	100.0	40.4	58.0	1.6
60歳代	131	25	105	1	100.0	19.1	80.2	0.8
70歳以上	39	4	35	0	100.0	10.3	89.7	0.0
無記入・不詳	5	3	2	0	100.0	60.0	40.0	0.0
女	660	364	219	77	100.0	55.2	33.2	11.7
20歳未満	26	18	3	5	100.0	69.2	11.5	19.2
20歳代	127	87	13	27	100.0	68.5	10.2	21.3
30歳代	182	111	49	22	100.0	61.0	26.9	12.1
40歳代	150	89	47	14	100.0	59.3	31.3	9.3
50歳代	102	41	58	3	100.0	40.2	56.9	2.9
60歳代	49	13	32	4	100.0	26.5	65.3	8.2
70歳以上	16	1	14	1	100.0	6.3	87.5	6.3
無記入・不詳	8	4	3	1	100.0	50.0	37.5	12.5

1) 総数には男女の不詳を含む。

## IV 記録表の取りまとめ結果

### 第1 調査員記録表

#### 1 調査員の基本属性について

調査員は84人で、男女別にみると男性が21人（25.0%）、女性が63人（75.0%）となっている。

また、年齢階級別にみると、60歳代が最も多く40人（47.6%）、次いで50歳代が14人（16.7%）となっている。国勢調査経験回数別にみると、経験なしが29人（34.5%）、経験ありが53人（63.1%）となっており、経験ありの中では1回が最も多く28人（33.3%）となっている。

《表IV-1》

表IV-1 調査員の基本属性

		実数	構成比(%)
総数		84	100.0
性別	男	21	25.0
	女	63	75.0
年齢階級	10歳代	1	1.2
	20歳代	5	6.0
	30歳代	4	4.8
	40歳代	13	15.5
	50歳代	14	16.7
	60歳代	40	47.6
	70歳代以上	7	8.3
国勢調査員経験	国勢調査員の経験あり	53	63.1
	1回	28	33.3
	2回	14	16.7
	3回	7	8.3
	4回	2	2.4
	5回以上	2	2.4
	国勢調査の経験なし	29	34.5
不詳	2	2.4	

## 2 担当地域について

### (1) 担当地域の認知度

調査員の担当地域の地理的な認知度については、「多少知っていた」(51.2%)の割合が高くなっている。 《表IV-2》

表IV-2 調査員の担当地域の認知度

		調査区数	構成比(%)			
			よく知っていた	多少知っていた	ほとんど知らなかった	不詳
総数		168	23.8	51.2	23.8	1.2
地域特性	オートロックマンション地域	42	16.7	61.9	19.0	2.4
	単身者が居住する住宅が多い地域	42	21.4	54.8	21.4	2.4
	一戸建の多い地域	44	40.9	43.2	15.9	0.0
	その他の地域	40	15.0	45.0	40.0	0.0

### (2) 担当世帯の認知度

調査員の担当地域の世帯の認知度については、「ほとんど知らなかった」(72.6%)の割合が高くなっている。 《表IV-3》

表IV-3 調査員の担当世帯の認知度

		調査区数	構成比(%)			
			よく知っていた	多少知っていた	ほとんど知らなかった	不詳
総数		168	6.5	19.6	72.6	1.2
地域特性	オートロックマンション地域	42	2.4	11.9	83.3	2.4
	単身者が居住する住宅が多い地域	42	4.8	7.1	85.7	2.4
	一戸建の多い地域	44	13.6	34.1	52.3	0.0
	その他の地域	40	5.0	25.0	70.0	0.0

### 3 調査員事務打合せ会の運営方法における意見等

【調査員事務打合せ会で、分かりにくかった、詳しく説明してほしい内容】

- 『調査区要図』, 『調査世帯一覧』の書き方
- 市町村番号, 調査区番号の説明
- 『インターネット回答の利用案内』やオンライン調査についての詳しい説明
- 「調査区番号」と「世帯番号」が, 『調査区要図』, 『調査世帯一覧』, 『インターネット回答の利用案内』のすべてに共通することの強調
- オンライン回答中にトラブルが起きた場合の対処の仕方
- オンライン回答をしなかった世帯に対し, 後日, 調査票を配布することの必要性
- 郵送提出世帯の伝達方法（「回答状況確認表」が届くと思っていた。）
- 世帯が『郵送提出用封筒』を紛失した場合の対応
- 試験調査の必要性や, 試験調査の実施により改善できた事項の説明
- マンション交渉結果報告書の詳しい説明

【調査員の意見】

- 「調査区地図」の写しは分かりにくいので, 住宅地図などがあるとよい。
- 初心者と経験者を分けて説明してほしい。経験者には, オンライン回答など従前と変更になっている事務を中心に説明する方がわかりやすい。一方, 初めて経験する調査員には, 詳しく説明しなければ理解できない。

#### 4 世帯の居住確認の状況

調査員が、世帯の居住確認が困難だった住宅・建物があった調査区の割合は、67.3%となっている。

これを地域特性別にみると、「その他の地域」(80.0%)の割合が高くなっている。また、1調査区における居住確認が困難だった世帯数は、「1～5世帯」の割合が高くなっている。 《表IV-4》

表IV-4 世帯の居住確認が困難だった住宅・建物の有無別状況

	調査区数	構成比 (%)						不詳	
		なかった	あった	その世帯数					
				総数	1～5世帯	6～10世帯	11世帯以上		
総数	168	28.6	67.3	(100.0)	(75.3)	(17.8)	(6.8)	4.2	
地域特性	オートロックマンション地域	42	33.3	64.3	(100.0)	(73.7)	(10.5)	(15.8)	2.4
	単身者が居住する住宅が多い地域	42	16.7	69.0	(100.0)	(81.8)	(18.2)	(0.0)	14.3
	一戸建の多い地域	44	43.2	56.8	(100.0)	(73.9)	(26.1)	(0.0)	0.0
	その他の地域	40	20.0	80.0	(100.0)	(75.0)	(15.0)	(10.0)	0.0

#### 【居住確認が困難だった主な事例】

- ポストに郵便物やチラシなどが溜まったままになっている。
- 表札、ポストに名前がない。
- メモを入れても連絡がない。
- プライバシーを理由に、管理人から居住者の情報を得られない。
- オートロックマンションの中に入ることができない。
- 庭が手入れされており、窓から生活用品が見えるなど、外見上は生活感があるように思えるが、セカンドハウスとして使用、社会施設などに入所している。
- 地域の人と交流がないため、近隣に確認しても情報を得られない。
- 夜間に訪問しても電気がついていない。
- 管理人が不在のマンション・アパート
- 単身世帯向けのマンション・アパート
- 何度訪問しても留守の住宅

#### 【居住確認のための主な対応方法】

- カーテンの開閉状態、洗濯物の有無、クーラーの使用、ガス・電気メーターのチェックなど
- 管理人から空室情報や居住状況を確認
- 近隣から聴取

## 5 「住宅の建て方」の記入状況

調査員が、調査票の「住宅の建て方」の記入が困難だった住宅や建物があった調査区の割合は、6.0%となっている。

これを地域特性別にみると、「その他の地域」(10.0%)の割合が高くなっている。

《表IV-5》

表IV-5 「住宅の建て方」欄の記入が困難だった住宅や建物の有無

		調査区数	構成比(%)		
			なかった	あった	不詳
総数		168	88.7	6.0	5.4
地域 特性	オートロックマンション地域	42	83.3	9.5	7.1
	単身者が居住する住宅が多い地域	42	88.1	2.4	9.5
	一戸建の多い地域	44	97.7	2.3	0.0
	その他の地域	40	85.0	10.0	5.0

### 【記入が困難だった主な例】

- 1階が店舗，2階以上が住居になっている建物
- 1階が倉庫で2階に住居がある建物
- 学生が1部屋ずつ使用しており，トイレ・風呂は共有の一軒家
- 敷地内に，別の地域で暮らす姉夫婦が所有する建物がある。

## 6 世帯人員の確認時における世帯からの質問等の状況

調査員が、世帯主又は代表者の氏名と男女別世帯人員を世帯から聴取して、『調査世帯一覧』を作成することについて、世帯から質問等があった調査区の割合は28.6%となっている。

これを地域特性別にみると、最も高いのは、「オートロックマンション地域」(40.5%)となっている。

また、1調査区における世帯人員の確認時における世帯からの質問等があった世帯数は、「1～5世帯」の割合が高くなっている。 《表IV－6》

表IV－6 世帯人員確認時の世帯からの質問等の有無

	調査区数	構成比(%)						不詳	
		なかった	あった	その世帯数					
				総数	1～5世帯	6～10世帯	11世帯以上		
総数	168	68.5	28.6	(100.0)	(94.9)	(5.1)	(0.0)	3.0	
地域特性	オートロックマンション地域	42	57.1	40.5	(100.0)	(91.7)	(8.3)	(0.0)	2.4
	単身者が居住する住宅が多い地域	42	69.0	21.4	(100.0)	(88.9)	(11.1)	(0.0)	9.5
	一戸建の多い地域	44	72.7	27.3	(100.0)	(100.0)	(0.0)	(0.0)	0.0
	その他の地域	40	75.0	25.0	(100.0)	(100.0)	(0.0)	(0.0)	0.0

### 【主な質問等】

- 役所で分かっているはずではないか。
- 世帯人員を確認することの必要性。
- 調査票，又はオンライン回答を見れば分かるのに，聞きとることの理由。
- 住民票を移動せずに，県外に住んでいる場合の扱い。
- 未成年でも調査に協力するのか。
- 対象地域の選定方法。調査は義務か。

## 7 オンライン回答についての世帯からの質問等の状況

オンライン回答を、紙の調査票の配布に先立ち実施することについて、世帯から質問等があった調査区の割合は28.0%となっている。

これを地域特性別にみると、「一戸建の多い地域」(38.6%)、「オートロックマンション地域」(35.7%)の割合が高くなっており、1調査区における質問等があった世帯数は、「1～5世帯」の割合が高くなっている。

また、オンライン回答の操作方法や、ID・確認コードについて世帯から質問等があった調査区の割合は、26.8%となっている。

これを地域特性別にみると、最も高いのは、「一戸建の多い地域」(34.1%)となっており、1調査区における質問等があった世帯数は、「1～5世帯」の割合が高くなっている。

《表IV-7, 8》

表IV-7 オンライン回答だけ先にできることについての世帯からの質問等の有無

		調査区数	構成比(%)						
			なかった	あった	その世帯数			不詳	
					総数	1～5世帯	6～10世帯		11世帯以上
総数		168	67.9	28.0	(100.0)	(84.8)	(9.1)	(6.1)	4.2
地域特性	オートロックマンション地域	42	61.9	35.7	(100.0)	(100.0)	(0.0)	(0.0)	2.4
	単身者が居住する住宅が多い地域	42	78.6	7.1	(100.0)	(66.7)	(33.3)	(0.0)	14.3
	一戸建の多い地域	44	61.4	38.6	(100.0)	(72.7)	(9.1)	(18.2)	0.0
	その他の地域	40	70.0	30.0	(100.0)	(87.5)	(12.5)	(0.0)	0.0

### 【主な質問等】

- オンライン回答を先行し、調査票の配布を後にする理由
- セキュリティに問題はないか。
- インターネットを利用できないので、調査に回答しなくてよいか。
- オンライン回答をした場合、特典はあるか。
- スマートフォン、iPadで回答はできるか。
- 会社(勤め先)のPCでも回答できるか。
- 高齢者でも簡単に操作できるか。
- 隣人の回答もしてあげてよいか。
- (外国人から)日本語と英語どちらで答えればよいか。
- PCがない、インターネットを利用しないなどの理由から、今、調査票を配布してほしい。



表IV-8 オンライン回答の操作方法やID・確認コードについての世帯からの質問等の有無

		調査区数	構成比(%)						
			なかった	あった	その世帯数			不詳	
					総数	1～5世帯	6～10世帯		11世帯以上
総数		168	67.9	26.8	(100.0)	(90.9)	(6.1)	(3.0)	5.4
地域特性	オートロックマンション地域	42	66.7	31.0	(100.0)	(87.5)	(0.0)	(12.5)	2.4
	単身者が居住する住宅が多い地域	42	73.8	14.3	(100.0)	(80.0)	(20.0)	(0.0)	11.9
	一戸建の多い地域	44	65.9	34.1	(100.0)	(90.9)	(9.1)	(0.0)	0.0
	その他の地域	40	65.0	27.5	(100.0)	(100.0)	(0.0)	(0.0)	7.5

【主な質問等】

- セキュリティに問題はないか。
- スマートフォンで回答はできるか。
- 職場や友人のPCからでもよいか。
- 回答データを送信後、受付完了メールは届くのか。
- ID・パスワードは世帯員ごとに配布されるのか。
- 操作説明書はないのか。アクセスすれば利用の仕方が分かるのか。
- 回答期間が短い。
- 入力途中で失敗して、そのまま回答できなくなった。
- アクセスできなかった。
- スマートフォンで回答していたら途中で消えた。

## 8 調査書類の配布誤りの状況

『インターネット回答の利用案内』や調査票を配布するに当たっては、『調査世帯一覧』に記入された世帯番号と一致する書類を配布することとしていたが、配布誤りがあった調査区の割合は、9.5%となっている。

これを地域特性別にみると、最も高いのは、「その他の地域」(15.0%)となっている。

また、1調査区における配布誤りがあった世帯数は、1～5世帯の割合が高くなっている。

《表IV-9》

表IV-9 『インターネット回答の利用案内』や調査票の配布誤り

	調査区数	構成比(%)						不詳	
		なかった	あった	配布誤りのあった世帯数					
				総数	1～5世帯	6～10世帯	11世帯以上		
総数	168	85.7	9.5	(100.0)	(90.0)	(0.0)	(10.0)	4.8	
地域特性	オートロックマンション地域	42	88.1	9.5	(100.0)	(66.7)	(0.0)	(33.3)	2.4
	単身者が居住する住宅が多い地域	42	78.6	9.5	(100.0)	(100.0)	(0.0)	(0.0)	11.9
	一戸建の多い地域	44	95.5	4.5	(100.0)	(100.0)	(0.0)	(0.0)	0.0
	その他の地域	40	80.0	15.0	(100.0)	(100.0)	(0.0)	(0.0)	5.0

### 【配布を誤った理由】

- 2調査区分の書類を持ち歩いてきたため、誤って配布してしまった。
- 建物の外観が類似していたため、誤って配布してしまった。
- 『調査書類収納封筒』の世帯番号を見落としてしまった。
- 世帯を訪問する直前に、思いがけず世帯の人と出会ってしまったため、慌てて調査書類を配布してしまったところ、隣の世帯の書類を渡してしまった。
- 不注意から世帯番号を確認せずに配布してしまった。
- 世帯を訪問する時間帯が夕方から夜に集中し、訪問回数も多かったため
- 準備不足で配布書類に部屋番号を記入していなかったため、誤って配布した。
- 注意・確認しながら配布していたにもかかわらず、隣同士の住宅の書類を逆に配布してしまった。

## 9 調査票の記入支援の状況

調査票の配布・回収の際に、単身の高齢者などの世帯に対し、調査票を一緒に記入するなどの記入支援を行なった世帯があった調査区の割合は56.5%となっている。

また、1調査区のうち記入支援を行った世帯数は、1～5世帯の割合が高くなっている。 《表IV－10》

表IV－10 単身の高齢者世帯などに対する調査票の記入支援

	調査区数	構成比(%)						不詳	
		なかった	あった	質問のあった世帯数(%)					
				総数	1～5世帯	6～10世帯	11世帯以上		
総数	168	37.5	56.5	(100.0)	(82.4)	(11.8)	(5.9)	6.0	
地域特性	オートロックマンション地域	42	61.9	33.3	(100.0)	(100.0)	(0.0)	(0.0)	4.8
	単身者が居住する住宅が多い地域	42	47.6	33.3	(100.0)	(78.6)	(14.3)	(7.1)	19.0
	一戸建の多い地域	44	18.2	81.8	(100.0)	(76.7)	(13.3)	(10.0)	0.0
	その他の地域	40	22.5	77.5	(100.0)	(82.8)	(13.8)	(3.4)	0.0

### 【記入支援を行った状況】

- 高齢などを理由に代筆を依頼された。(文字が記入できない、視力が弱く調査票が見えにくい、設問の意味を理解できない、一人で記入する自信がない、記入の仕方が分からない、病気で手指を動かしづらいなど)
- 世帯から記入が困難であると言われたので、調査員から記入支援を申し出た。
- 調査員が調査事項を読み上げ、世帯に記入してもらった。
- 世帯主が長期不在のため、子供が調査票に記入するのを支援した。
- 世帯の人が手を怪我してしまったため、代筆を依頼された。

## 10 調査票の提出方法についての世帯からの質問等

調査員に直接提出された封をしていない調査票を調査員が確認することについて、世帯から質問等があった調査区の割合は8.9%となっている。

また、提出方法について世帯から質問等があった調査区の割合は、19.0%となっている。 《表IV-11, 12》

表IV-11 調査員が調査票を確認することについての世帯からの質問等の有無

		調査区数	構成比(%)		
			なかった	あった	不詳
総数		168	84.5	8.9	6.5
地域 特性	オートロックマンション地域	42	92.9	4.8	2.4
	単身者が居住する住宅が多い地域	42	83.3	2.4	14.3
	一戸建の多い地域	44	88.6	11.4	0.0
	その他の地域	40	72.5	17.5	10.0

### 【主な質問等】

- 記入内容を見られたくないので、封をして提出してもよいか。
- 高齢者からは、記入内容を確認してほしいという意見も多い。
- 内容確認は、個人情報が出て非常識だと言われた。
- 国（総務省）が確認するだけではいけないのか。

表IV-12 提出方法についての世帯からの質問等の有無

		調査区数	構成比(%)		
			なかった	あった	不詳
総数		168	74.4	19.0	6.5
地域 特性	オートロックマンション地域	42	85.7	7.1	7.1
	単身者が居住する住宅が多い地域	42	71.4	11.9	16.7
	一戸建の多い地域	44	72.7	27.3	0.0
	その他の地域	40	67.5	30.0	2.5

### 【主な質問等】

- どの封筒に入れて提出したらよいか。
- 郵送で提出しても、調査員が訪問するのはなぜか。
- 記入の仕方が分からない場合は、調査員に記入を依頼してもよいか。
- コールセンターが7月15日まで開設されているのはなぜか。
- オンライン回答をしたことは調査員に知らされるか。

- オンラインで回答できなかった場合は、調査員に、紙の調査票を届けてもらうよう連絡する必要があるか。
- オンライン回答は、期限を過ぎてもできるか。
- 「何度も訪問してもらうのは申し訳ない」、「何回も来られて面倒」、「在宅時間が不明」、などの理由で、郵送を希望する世帯が多い。
- 『調査書類収納封筒』にいろいろ書きすぎて、提出期限が分かりにくい。

## 11 調査票の配布及び回収における世帯からの質問等

調査票配布期間に世帯から質問等があった調査区の割合は22.6%となっている。また、回収期間に世帯から質問等があった調査区の割合は20.2%となっている。

《表IV-13, 14》

表IV-13 調査票の配布期間における世帯からの質問等の有無

		調査区数	構成比(%)		
			なかった	あった	不詳
総数		168	69.6	22.6	7.7
地域特性	オートロックマンション地域	42	81.0	11.9	7.1
	単身者が居住する住宅が多い地域	42	61.9	14.3	23.8
	一戸建の多い地域	44	70.5	29.5	0.0
	その他の地域	40	65.0	35.0	0.0

### 【主な質問等】

- なぜ試験調査を実施するのか。調査地域はどのようにして選ばれたのか。
- 調査内容は前回の国勢調査と同じか。
- オンライン回答がうまくできなかったが、この調査を信用してもよいのか。
- 調査票を提出しないとどうなるのか。
- 義務でなければ断りたい。試験調査の目的は何か。
- 「住宅の床面積の合計」はどのようにして必要なのか。
- 調査の告知がされていない、詐欺ではないのか。
- 該当していない地域もある。次回の国勢調査は27年のはずである。
- 警察に電話をしたら、現在、国勢調査は実施していないので、騙り調査には気をつけるように言われた。
- 配布から回収までの期間が短い。
- なぜオンライン回答と紙の調査票の配布時期が別なのか。

表IV-14 調査票の回収期間における世帯からの質問等の有無

		調査区数	構成比(%)		
			なかった	あった	不詳
総数		168	70.8	20.2	8.9
地域特性	オートロックマンション地域	42	83.3	9.5	7.1
	単身者が居住する住宅が多い地域	42	66.7	9.5	23.8
	一戸建の多い地域	44	72.7	27.3	0.0
	その他の地域	40	60.0	35.0	5.0

【主な質問等】

- 人口統計は何に活用されるのか。
- 回収した調査票の廃棄方法はどうなっているのか。
- 調査地域はどのようにして選ばれたのか。
- 未成年なので提出しなくてよいと思った。
- 住民票は別のところにあるが、提出しなくてはいけないのか。
- 今回試験調査をした世帯は、次回の本調査はしなくていいのか。
- 月末まで仕事で不在の場合、どういう方法で提出すればよいか。
- 調査票の記入の仕方を教えてほしい。（「住居の種類」、「住宅の床面積の合計」など）

## 12 調査票の書き方などについての世帯からの質問等の状況

調査票の書き方などについて、世帯から質問等を受けた調査員の割合は54.8%となっている。

これを地域特性別にみると、最も高いのは、「一戸建の多い地域」(77.3%)となっている。 《表IV-15》

表IV-15 調査票の書き方などについての質問等の有無

		調査員数	あった	割合 (%)
総数		84	46	54.8
地域 特性	オートロックマンション地域	21	10	47.6
	単身者が居住する住宅が多い地域	21	6	28.6
	一戸建の多い地域	22	17	77.3
	その他の地域	20	13	65.0

### 【主な質問等】

(高齢者を中心として)

- 視力が弱いので代わりに記入してもらえるか。
- 年金受給者の場合の仕事の記入など

(調査事項の記入の仕方)

- 6月13～19日の間に仕事がなかった場合の仕事について
- 勤め先が他の市町村の場合の「都道府県・市区町村」名の書き方
- 勤務先、仕事の内容などはなぜ必要なのか。
- 「住宅の床面積の合計」が分からない。
- 電話番号は記入しなければならないのか。
- 記入をしたくない調査項目は記入しなくてもよいか。

(調査の定義)

- 住民票を移動していない場合の扱い。
- 勤務地と自宅の2ヶ所に寝泊りしている場合
- 調査対象になるのか。(3ヶ月要件、外国籍など)
- 1住宅に二人で同居している場合の世帯主の扱い
- 親夫婦と子夫婦が同じ建物内に居住している場合の扱い



### 13 『インターネット回答の利用案内』の配り分け

#### 【気をつけた点・工夫した点など】

- 『インターネット回答の利用案内』の余白に「世帯番号」,「世帯主氏名」,アパートなどの「建物の名称」,「部屋番号」などの事項を記入した。
- 『インターネット回答の利用案内』に「世帯主氏名」や「部屋番号」などを記入した付箋などを付す。
- 調査票での提出を希望する世帯には,その場で『インターネット回答の利用案内』に×印を記入した。
- 『調査世帯一覧』に,配布状況が分かるように印を付けた。
- 『調査区要図』に世帯主名を記入し,確認しながら配布
- 共同住宅は,マンション別,階数別などにまとめる。
- 一戸建と共同住宅を分けて配布
- 時間や日を分けるなどして,1調査区ずつ配布
- 世帯番号順に配布
- 明るい日中に配布

## 14 世帯訪問の状況

### (1) 1世帯当たりの平均訪問回数

調査員の調査活動時における1世帯当たりの平均訪問回数をみると、4.5回となっている。

これを地域特性別にみると、「単身者が居住する住宅が多い地域」の平均訪問回数が5.7回と最も多くなっている。 《表IV-16》

表IV-16 調査員の訪問回数別訪問状況

	総数 〔訪問 世帯数〕	訪問回数別割合(%)					1世帯 当たり 平均訪問 回数	
		1回	2回	3回	4回	5回 以上		
総数	8,323	14.9	18.0	17.3	10.3	37.1	4.5	
地域 特性	オートロックマンション地域	2,306	13.7	13.5	16.8	10.3	42.3	4.9
	単身者が居住する住宅が多い地域	2,204	9.3	13.7	12.5	7.0	53.1	5.7
	一戸建の多い地域	1,836	15.5	26.7	24.6	12.9	20.3	3.4
	その他の地域	1,977	22.0	20.1	16.5	11.8	29.0	4.3

### (2) 時間帯別訪問回数

世帯への訪問時間帯別の訪問回数をみると、「オートロックマンション地域」において、夜の訪問の割合が高くなっている。

また、「単身者が居住する住宅が多い地域」は、他の地域特性に比べ、朝の訪問回数が多く、昼の訪問回数が少なくなっている。 《表IV-17》

表IV-17 調査員の時間帯別訪問状況

	総数 〔訪問 回数〕	訪問時間帯別割合(%)			
		朝	昼	夜	
総数	37,166	6.5	58.5	35.1	
地域 特性	オートロックマンション地域	11,286	6.0	55.1	38.9
	単身者が居住する住宅が多い地域	12,480	8.3	57.3	34.4
	一戸建の多い地域	6,281	5.4	61.0	33.5
	その他の地域	7,119	4.9	63.6	31.5

## 15 サポートセンターの状況

### (1) 電話連絡の効果

調査期間中、調査員に対しサポートセンターから、調査事務の進捗状況の確認などのため電話連絡を行ったが、その効果についてみると、「スケジュールの再確認ができた」が25.0%、「疑問点などの質問ができた」が17.9%となっている。

《表IV-18》

表IV-18 サポートセンターから調査員への電話連絡の効果

	調査員数	構成比(%)								
		ア スケジュール の再確認が できた	イ 『インターネット 回答の利用 案内』の配り 方を再確認 できた	ウ 「回答状況 確認表」の 見方や処理 の仕方の質 問ができた	エ 疑問点など を質問できた	オ 何度も電話 があり煩わし かった	カ 質問に対す る的確な回 答がなかった	キ その他	不詳	
総数	84	25.0	6.0	1.2	17.9	9.5	4.8	7.1	28.6	
地域 特性	オートロックマンション地域	21	23.8	14.3	0.0	9.5	4.8	0.0	4.8	42.9
	単身者が居住する住宅が多い地域	21	28.6	4.8	0.0	23.8	9.5	4.8	0.0	28.6
	一戸建の多い地域	22	31.8	0.0	0.0	18.2	9.1	4.5	9.1	27.3
	その他の地域	20	15.0	5.0	5.0	20.0	15.0	10.0	15.0	15.0

注) 複数回答ありであるため、「サポートセンターからの電話連絡の効果（ア〜キ）」の各割合を足し上げた値は100にはならない。

#### 【対応に困った事例など】

- 郵送提出世帯の伝達は1回だけでなく、後から届いたのも知らせてほしい。
- 追送への対応が遅い。また、土日でも対応してほしい。
- 不足書類の対応が、書類によりサポートセンターと役所に分かれていること
- 『インターネット回答の利用案内』が不足しているのだから、その後の事務を考えて『郵送提出用封筒』も一緒に送ってほしかった。
- 夜間対応してもらえない。
- 約束の時間に連絡がない。
- 質問したことに対し、的確な回答がなかった。
- 調査書類に書かれている内容と違う指示を出された。
- 言葉づかいが悪く、態度が横柄に感じられた。
- 調査区番号を間違えて連絡してきた。
- 仕事中は電話に出られない。かけ直すにも料金が20秒ごとに加算されるので、折り返すのをためらうこともあった。
- 「マンション交渉結果報告用紙」の「交渉結果」に「協力OK」とあるが、具体的にはどういうことか分からなかった。

#### 【その他に気づいた点など】

- もっと頻繁に連絡がほしかった。
- 分からないことがあった時だけ、調査員から連絡する形でよい。

- マニュアルどおりの音声案内のようだった。
- サポートセンターと役所のどちらに質問すべきか判断しづらかった。
- 調べてもらいたいことがありお願いしたが、連絡がなかった。
- サポートセンターは不要である。
- 『郵送提出用封筒』の誤配布に対し、「バーコードで管理しているので困る」の一点張り。誤配布したことは申し訳なかったが、何のためのサポートセンターなのか。
- 連絡メモに対する世帯からの連絡は、直接調査員に連絡してほしい。
- 調査票の提出期限翌日に郵送提出世帯の伝達があったが、その後の郵送提出世帯の伝達について、連絡があった調査員にしか伝えないというのはよくない。
- 通話料が高い。
- マンション交渉結果報告にある住所が違っていた。
- 質問に対し、とても的確に親切に回答してもらい助かった。また、サポートセンターからの最初の電話連絡で、『調査区要図』と『調査世帯一覧』の書き方が再確認でき、後の調査がしやすくなった。
- オペレーターによって対応内容に差がある。
- 役所に電話をする場合、些細な質問はしにくいですが、サポートセンターは、些細なことでも遠慮なく質問できるのでよかった。ただし、地域の具体的なことは、役所の担当者でないと分からないことがある。

(2) 不足用品への対応状況

調査員が調査事務に用いる書類・用品について、不足があった割合は33.3%となっている。また、書類・用品に不足があった場合の連絡先については、サポートセンターへの連絡が64.0%となっている。

なお、連絡してから調査員の手に書類・用品が届くまでの日数は、5日以上(42.9%)が最も高くなっている。

《表IV-19》

表IV-19 調査員が調査事務に用いる調査書類・用品の不足の有無

	調査員数	構成比(%)											不詳	
		なかった	あった	連絡した先				書類が届くまでの日数						
				総数	サポートセンター	市区町	不詳	総数	1～2日間	3～4日間	5日以上	不詳		
総数	84	59.5	33.3	(100.0)	(64.0)	(36.0)	(0.0)	(100.0)	(25.0)	(9.5)	(42.9)	(22.6)	7.1	
地域特性	オートロックマンション地域	21	42.9	52.4	(100.0)	(88.9)	(11.1)	(0.0)	(100.0)	(14.3)	(19.0)	(61.9)	(4.8)	4.8
	単身者が居住する住宅が多い地域	21	76.2	9.5	(100.0)	(87.5)	(12.5)	(0.0)	(100.0)	(33.3)	(0.0)	(28.6)	(38.1)	14.3
	一戸建の多い地域	22	50.0	45.5	(100.0)	(27.3)	(72.7)	(0.0)	(100.0)	(27.3)	(9.1)	(50.0)	(13.6)	4.5
	その他の地域	20	70.0	25.0	(100.0)	(50.0)	(50.0)	(0.0)	(100.0)	(25.0)	(10.0)	(30.0)	(35.0)	5.0

【対応に困った事例など】

- 依頼した番号と違う『郵送提出用封筒』が送付されてきた。

- 『調査についてのお知らせ』の追送依頼に対し、配布期間終了後の到着日を案内された。説明をして期間内に送付してもらったが、事務日程は把握しておいてほしい。
- 『インターネット回答の利用案内』の追送依頼に対し、システムの都合ですぐに追加印刷ができなかったのが、サポートセンターの立ち上げをもう少し早くした方がよかったのではないか。
- 送付までに日数を要するので、『インターネット回答の利用案内』の追送がある場合は、『郵送提出用封筒』も一緒に送付してほしい。

**【市区町村と比較して気づいた点など】**

- 書類を受け取るまでの時間もったいないし、受け取るまでに時間がかかるため、予定どおりに事務が進まないことがあった。
- 市区町村に調査用品があれば、不足書類を自分で取りに行ける。
- 地域の実情を理解しているので、市区町村の方が早く的確な回答が出る。
- 地域の地理に詳しくないので、サポートセンターには質問できない。
- 市区町村の方が気軽に相談できる。
- サポートセンターは、時間内であれば必ず連絡がつくので心強い。

**【対応状況（応接など）で気づいた点など】**

- 非常に親切で、安心して説明を聞くことができた。
- 説明が分かりやすい。留守電にもはっきりと、要領よくメッセージが入っておりよく分かった。
- 正直、頼りないと感じることがあった。
- 話が長いので、もっと簡潔にしてほしい。
- 話が通じないことが多く、上司に確認しながらの回答で困った。
- 追求されているような話し方で、いい感じを受けなかった。
- マニュアルどおりの話し方で、思いやりがなく残念
- 回答に時間がかかる場合は、一度電話を切ってかけ直してほしい。
- 電話連絡を受けた際、運転中であったのに、状況を確認せず話しを始めた。状況を確認してから話しを進めてほしい。
- 質問をした際、「手引の○ページを読んでください。」と言われたが、サポートする立場なら回答してほしい。
- 調査期間中は無休で対応してほしい。
- 勤務時間中に何度も電話があったので対応可能な時間を指定したが、それでも電話がかかってきたので、申し送りをきちんとしてほしい。

## 16 マンション等への協力依頼状況

### 【協力依頼に係る意見など】

- 管理人に調査への協力をお願いし、調査票の提出期限について書かれたお知らせを各部屋に入れてもらった。
- ポスター掲示の確認と、不在状況を教えてもらった。
- 「聞き取り」では、管理人、理事会の役員から情報提供してもらった。
- 管理会社に電話をして、空室情報を提供してもらった。
- 「マンション交渉結果報告書」にあった不動産業者に連絡をしたところ、対応者が不明ということで対応してもらえなかった。また、そのため、「ポスターも誰が持っているか不明のため対応できない」と言われた。
- 管理人が、調査対象のマンション以外にもマンションを所有していたが、今回の調査対象ではないマンションにも掲示物の指示があったと立腹していた。
- 「マンション交渉結果報告書」には、オートロックマンション内での連続訪問は「了承」と記入されていたが、実際には断られた。
- 前回調査に比べ世帯数が増え、調査書類が不足した。協力依頼の交渉をするのであれば、交渉時に世帯総数だけでも確認した方がよい。
- 管理会社が了承しているのであれば、空室情報を事前に入手してほしい。

## 17 調査票の検査状況

記入漏れのため、世帯に問い合わせるなどして調査票に追加記入をした割合は35.1%となっている。

これを地域特性別にみると、最も高いのは、「一戸建の多い地域」(59.1%)となっている。

また、1調査区における追加記入件数について、調査事項数では「1～3項目」が、世帯数では「1～5世帯」の割合が高くなっている。 《表IV-20》

**表IV-20 記入漏れのため、世帯に問い合わせるなどして調査票に追加記入した件数等の有無**

	調査区数	構成比(%)											不詳	
		なかった	あった	調査事項数					世帯数					
				総数	1～3項目	4～6項目	7～10項目	11項目以上	総数	1～5世帯	6～10世帯	11世帯以上		
総数	168	49.4	35.1	(100.0)	(50.0)	(14.0)	(22.0)	(14.0)	(100.0)	(61.5)	(26.9)	(11.5)	15.5	
地域特性	オートロックマンション地域	42	69.0	14.3	(100.0)	(40.0)	(20.0)	(40.0)	(0.0)	(100.0)	(60.0)	(40.0)	(0.0)	16.7
	単身者が居住する住宅が多い地域	42	45.2	26.2	(100.0)	(63.6)	(9.1)	(27.3)	(0.0)	(100.0)	(71.4)	(14.3)	(14.3)	28.6
	一戸建の多い地域	44	36.4	59.1	(100.0)	(45.5)	(13.6)	(9.1)	(31.8)	(100.0)	(58.3)	(29.2)	(12.5)	4.5
	その他の地域	40	47.5	40.0	(100.0)	(50.0)	(16.7)	(33.3)	(0.0)	(100.0)	(62.5)	(25.0)	(12.5)	12.5

記入誤りのため、世帯に問い合わせるなどして調査票を修正した割合は21.4%となっている。

これを地域特性別にみると、修正した割合が最も高いのは、「一戸建の多い地域」(31.8%)となっている。

また、1調査区における修正件数については、調査事項数では「1～3項目」が、世帯数では「1～5世帯」の割合が高くなっている。 《表IV-21》

**表IV-21 記入誤りのため、世帯に問い合わせるなどして調査票を修正した件数等の有無**

	調査区数	構成比(%)											不詳	
		なかった	あった	調査事項数					世帯数					
				総数	1～3項目	4～6項目	7～10項目	11項目以上	総数	1～5世帯	6～10世帯	11世帯以上		
総数	168	64.3	21.4	(100.0)	(86.2)	(10.3)	(0.0)	(3.4)	(100.0)	(93.3)	(6.7)	(0.0)	14.3	
地域特性	オートロックマンション地域	42	71.4	14.3	(100.0)	(80.0)	(20.0)	(0.0)	(0.0)	(100.0)	(100.0)	(0.0)	(0.0)	14.3
	単身者が居住する住宅が多い地域	42	59.5	11.9	(100.0)	(100.0)	(0.0)	(0.0)	(0.0)	(100.0)	(100.0)	(0.0)	(0.0)	28.6
	一戸建の多い地域	44	65.9	31.8	(100.0)	(90.0)	(0.0)	(0.0)	(10.0)	(100.0)	(90.0)	(10.0)	(0.0)	2.3
	その他の地域	40	60.0	27.5	(100.0)	(77.8)	(22.2)	(0.0)	(0.0)	(100.0)	(90.9)	(9.1)	(0.0)	12.5

調査票のマーク欄、数字記入欄を書き直した割合は33.3%となっている。

これを地域特性別にみると、最も高いのは、「一戸建の多い地域」(59.1%)となっている。

また、調査票のマーク欄、数字記入欄を書き直した調査票のうち、調査票が汚れていたなどの理由により新しい調査票に書き直した割合は、28.6%となっており、

1 調査区における調査票の書き直し枚数は、「1～5枚」の割合が高くなっている。

《表IV-22》

表IV-22 マーク欄，数字記入を書き直した件数等の有無

	調査区数	構成比(%)												不詳	
		なかった	あった	調査事項数				汚れなどにより、別の調査票に書き直した枚数							
				総数	1～5 世帯	6～10 世帯	11世帯 以上	なかった	あった	総数	1～5 枚	6～10 枚	11枚 以上		
総数	168	51.2	33.3	100.0	(71.4)	(16.3)	(12.2)	(80.4)	(28.6)	(100.0)	(85.7)	(14.3)	(0.0)	15.5	
地域 特性															
オートロックマンション地域	42	76.2	9.5	100.0	(100.0)	(0.0)	(0.0)	(10.7)	(0.0)	(0.0)	(0.0)	(0.0)	(0.0)	14.3	
単身者が居住する住宅が多い地域	42	47.6	19.0	100.0	(87.5)	(12.5)	(0.0)	(14.3)	(0.0)	(0.0)	(0.0)	(0.0)	(0.0)	33.3	
一戸建の多い地域	44	40.9	59.1	100.0	(62.5)	(16.7)	(20.8)	(30.4)	(17.9)	(100.0)	(87.5)	(12.5)	(0.0)	0.0	
その他の地域	40	40.0	45.0	100.0	(69.2)	(23.1)	(7.7)	(25.0)	(10.7)	(100.0)	(83.3)	(16.7)	(0.0)	15.0	



## 18 調査書類・用品についての意見等

### (1) 『調査員のしごと』

- カレンダーは事務日程の確認に役立った。
- カレンダーの隣ページにメモがあるとよい。
- 『調査票の記入のしかた』と統合し、分かりやすい書類としてほしい。
- 事務ごとの注意点を分かりやすく盛り込んでほしい。
- 段階に応じてすべき事務を、簡潔に1ページ以内で書くべき。
- 『調査の手引』があるので不用。

### (2) 『インターネット回答の利用案内』

- 調査員が説明しやすいように作成されていた。
- 調査員にとっては事務の増加だが、世帯にとってはよかったと思う。
- 事前に操作体験できたことはよかった。
- 内容が簡素すぎる。画面遷移が分かる書類が必要
- もう少し簡単にアクセスできるようにすべき。
- ゴミ箱に捨てられていたが、チラシのようで重要な書類と思われなかったのではないか。
- パスワードなど重要なことが書かれているのに、封筒にも入れず渡すのはおかしいと思った。
- 回答期間に余裕があると、気づいたら期限を過ぎていたということもあるので、回答期間はもう少し短くてよい。
- 回答期限の前に、オンライン回答の促進と調査票の配布を知らせる書類があるとよい。
- 高齢者世帯では、オンライン回答はできないという世帯が多かった。
- PCの操作ができない、PCもスマートフォンも所有していないとして、書類の受け取りを拒否された。
- オンライン回答をしない・できない世帯には、最初から調査票を配布してもよいのではないか。調査票と別々に配布する意味が理解できない。
- 同居世帯がいる度に、書類の追送依頼をしなければならず手間だった。最初から予備を配布してほしい。
- 操作が分かりづらく、何度もコールセンターに確認した世帯があった。
- オンラインで回答できなかった世帯があった。(ログインできない、途中までしか入力できなかったなど)

### (3) 調査票

- 簡単で書きやすい。
- 字を大きくしてほしい。
- ガイドラインが薄くて見にくい。記入枠の色が見にくい。

- 「5年前の住居の所在地」の選択肢に、「現在と同じ場所」は必要か。
- 「住宅の床面積の合計」は分からない世帯が多い。また、分からない世帯の中には、「家の中を見て計算して」と言う世帯もいた。
- 電話番号の記入欄が分かりにくく、記入漏れもかなり多かった。
- 「本人の仕事内容」に何を書いていいか分からないという意見を多く聞いた。
- 三つ折りなので、不在世帯にポスティングするには扱いやすかった。
- 三つ折りのため『郵送提出用封筒』で提出する世帯が多かったので、広げた状態で配布すると思った。
- 三つ折りで小さいのに『調査書類収納封筒』が大きすぎて、世帯に説明する際に取り出そうとしても、封筒の底に入ってしまう探しにくかった。
- 市区町村コードが記入された状態で、調査票を受け取ることはできないか。
- 数字の書き方が普段と違うので困る。
- 配布部数が少ない。

#### (4) 調査世帯一覧

- 段ずれ防止のため、中央や右端にも世帯番号があるとよい。
- 「世帯番号」、「世帯主又は代表者の氏名」と「提出状況」が離れているので、書き間違いを起こしやすい。
- 間違いやすい（段ずれ）ので、行ごとに色分けをする方がよい。
- 行間が狭く、書きづらかった。
- 網掛の色が濃く文字が見えにくかったため、もっと薄い色にしたほうがよい。
- 大きくて扱いにくいので、A4サイズにしてほしい。
- 大きくて書きやすかったが、下敷きが小さく用紙の端が折れてしまった。（おそらく、下敷きの留め具を左側において使用したと思われる。）
- 活動期間全体を通じて雨だったため、汚損し、書き直しが必要だった。
- 「備考」のスペースが足りなかった。

#### (5) 調査書類収納封筒

- 封筒のシールは要らない。
- 『調査書類収納封筒』の番号記入欄横に世帯主氏名等を記入できるスペースを設けてほしい。アパート等は部屋番号も記入しないと間違いやすい。

#### (6) 調査書類入れ（手提げ袋）

- 横長のため、雨の日は持ちにくかった。
- 大きすぎて、自転車のかごに収まらず、使いにくかった。
- 大きすぎて、何がどこにあるのか分からなくなる。仕切りがあればよい。
- 縦長がよい。

#### (7) 連絡メモ

- 不在が多く、5冊使っても足りなかった。
- 単身者向けマンションは面接できない場合が多いので、最初から多めに配布してほしい。
- たくさん余った。
- 連絡先は、市の連絡先とする方が信頼されると思う。

(8) 筆記用具セット

- 鉛筆の数が多いいのではないか。
- 鉛筆は3本あれば十分。鉛筆削りがあれば困ることはない。国勢調査となれば数も多い。これも税金なので考えた方がよいと思う。
- シャーペンの芯が折れて困った。
- 芯は0.5よりも太い方がよい。色も、もっと濃い方がよい。

(9) 従事者用腕章・調査員証

- 調査員証はもっと大きなものをお願いしたい。
- 従事者用腕章は使用しにくい。

(10) 下敷き

- 大きいので携行に不便。
- 「国勢調査」とだけ印刷してあり、丈夫で何回でも使用できるものがよい。
- きちんと紙をはさめる留め具（バネ）がよい。弱いので使いづらかった。
- サイズが大きくなった割には強度がない。湿気に弱く困った。
- 鉛筆もはさまらず、留め具として役に立たない。
- 自前のバインダーなどを使って対応した。
- 留め具を左側に持ったときのために、「国勢調査」の文字を入れる位置は逆の方がよい。

(11) 世帯アンケート

- 調査票を直接回収できた世帯には、その場で手渡した方がよいのではないか。
- 世帯から、面倒だという苦情があった。
- オンライン回答世帯への配布は、かえって混乱を招くだけだと思う。

(12) 調査員記録表

- 作成することの意味が理解できない。面倒だ。

(13) 安全対策用品（都道府県で用意）

- 防犯ブザーは使わないという調査員もいるので、希望者のみの配布でよい。
- マンション内は廊下やドア付近が暗いので、手元用の懐中電灯があるとよい。

(14) 調査書類・用品全般

- 記入する書類が多くて大変だった。もっと簡素化してほしい。

## 19 試験調査を通じて気づいた点など

### (1) 調査協力について

- 一戸建とマンションでは、協力の度合いや意識が異なるように感じた。
- 顔見知り調査員の方が、安心感を得られ、回答率も上がったのではないかと。
- 回答方法の選択肢が増えることで、調査への協力を呼びかけやすくなる。
- 「国勢調査」の認知度により、協力姿勢が違っていると感じた。
- 「国勢調査」そのものが認識されていないと感じた。説明しようとするインターホンが切られることが多かった。特に若い世代に多かった。
- 国勢調査を知らない人が多い。
- 調査年ではないため、試験調査の実施を疑う世帯が多かったように思う。

### (2) 調査困難事例

- オートロックマンションは、インターホンで会話することさえ難しい。
- オートロックマンションは、連続訪問をすると管理人に苦情がくるということを聞いたので、時間はかかるが丁寧な対応を心がけた。オートロックマンションの調査は、マンションの住人をお願いするのがよいと思った。
- マンションは不在、居留守が多い。面接できても拒否されることが多い。
- マンションは、近隣からの聞きとりも全くできない。
- 学生マンションは訪問する週・日・時間を変えても、会うことが難しかった。
- 単身者向けマンションの中には、インターホン対応しかしてもらえず、建物内に立ち入れないマンションもあった。

### (3) 調査方法等について

- 『調査についてのお知らせ』を配布する際、オンラインか調査票か（調査票の場合は、郵送か調査員回収か）を事前に確認し、調査員は必要な期間に訪問する方が、世帯からも鬱陶しがられず、調査員の負担も少なくなる。
- 『調査についてのお知らせ』と『インターネット回答の利用案内』、調査票を一括配布した方がよい。
- 提出方法の選択肢が多いので世帯は回答しやすかったと思うが、何回も訪問しなければならず大変だった。
- 都市部は不在が多いので、国から住民票に基づく住所に調査書類を郵送し、郵送されていない世帯を調査員がフォローしていく方法がよいのではないかと。
- 先行方式の調査方法は、世帯からすると分かりにくい。
- 世帯人員の確認は、調査票配布時であれば比較的説明しやすいが、『インターネット回答の利用案内』配布時は、説明が難しい。
- 郵送提出希望世帯には、提出状況の確認に訪問しなくても、『連絡メモ』で提出期限を再連絡するだけでもよいのではないかと。
- 訪問回数が多く、世帯にとっては迷惑だと感じた。

- 調査書類の配布，回収期間は，もう少し短くてもよい。
- 単身者向けマンションは，平日より土・日の方が訪問に向いているが、『インターネット回答の利用案内』の配布期間に土・日が一回だけで，面接できる機会が少ないと思う。

#### (4) 調査事務全般について

- ミスをしてはいけない箇所(調査区番号や世帯番号など)の記入と検査など，調査員に負担をかけすぎている。
- 若い世代には，オンライン回答は反応がよかったように思う。
- 民間サポートの活用はよいが，活動内容に不安がある。サポートの中に調査員経験者がいればよいと思った。
- 不在世帯に対しては，訪問時間の工夫が必要だと感じた。
- オンライン回答が導入され，自宅での作業に時間を要するようになった。
- 高齢者の世帯が多かったので，調査のお願いや説明に時間がかかった。
- 封入提出世帯の中には，見られたくないから封をしたのではなく，シールがあるので封をしようと思った世帯が多いように思った。
- できるだけ面接した上での依頼を心がけたが，メモを活用し，最後の回収に力を入れた方がよかったと思う。配布時に面接できても協力してもらえない世帯もあるし，面接できなくても協力してくれる世帯があるので，そうであるなら一言添えたメモが大切になると思う。
- 雨の日に右手に傘，左手に書類の入った重たい手さげ袋は，非常に調査しづらかった。

#### (5) 広報について

- 国勢調査を理解してもらうための広報，特に20～40代を対象にした広報を充実させてほしい。
- オンラインで簡単に回答できると分かれば，協力する世帯も増えると思う。
- 事前パンフレット・ポスター・広告などは，若者に対して調査の知名度が上がるので必要だと思う。
- 高校生の子供がオンライン回答をしたという世帯があった。中学・高校で広報活動をしたらどうか
- コンビニにポストがあるので，コンビニ内に「郵送しましたか」のポスターを掲示したらどうか。
- 本物の調査員か，疑っている人が多くいた。同じ市内でも対象でない地域があることに納得がいかない世帯もいる。広報が重要だと思う。

#### (6) その他

- 大変だったが勉強になった。この経験を27年調査に活かしたい。

- 家族の協力がなければできない仕事だった。
- 調査期間中, 専用の電話を持たせてほしかった。仕事で一時的なものなのに, 個人の電話を使うことは理解できない。報酬を減らしてでも, 電話を用意してほしかった。
- 試験調査なので謝礼があればよいと思った。(シャープペンシル・ボールペン・エコバッグなど)

## 第2 調査状況等記録表

### 1 調査員からの連絡・照会状況

調査員から市区町への連絡・照会件数をみると、14市区町の平均で17.1件となっている。 《表Ⅳ-23》

表Ⅳ-23 調査員からの連絡・照会状況

調査員からの 連絡・照会件数	1～19件	20～39件	40～59件	60件以上	14市区町 合計件数	14市区町 平均件数
市区町数	9	5	0	0	240	17.1

また、連絡・照会の主な内容をみると、14市区町の平均でオンライン回答に関すること及びオンライン回答世帯・郵送提出世帯の特定に関することは1.9件、『調査世帯一覧』の作成方法については1.1件、提出方法に関することは0.9件、その他は11.2件となっている。

なお、その他の主な内容としては、調査書類・用品の不足についての連絡は2.1件、調査書類・用品の配布時期と配布先の確認及び調査困難世帯への対応方法は1.1件、民間サポートの対応については0.9件となっている。

《表Ⅳ-24》

表Ⅳ-24 調査員からの連絡・照会の内訳別状況

	市区町数					14市区町 合計件数	14市区町 平均件数
	0件	1～9件	10～19件	20～29件	30件以上		
オンライン回答に関すること	5	9	0	0	0	27	1.9
オンライン回答世帯・郵送提出 世帯の特定に関すること	7	6	1	0	0	27	1.9
『調査世帯一覧』の作成方法について	5	9	0	0	0	16	1.1
提出方法に関すること	8	6	0	0	0	13	0.9
その他	0	8	4	1	1	157	11.2
調査書類・用品の不足についての連絡	-	-	-	-	-	30	2.1
調査書類・用品の配布時期と配布先の 確認	-	-	-	-	-	16	1.1
調査困難世帯の対応方法	-	-	-	-	-	15	1.1
民間サポートの対応について	-	-	-	-	-	12	0.9



## 2 世帯からの連絡・照会状況

世帯から市区町への連絡・照会件数をみると、14市区町の平均で10.6件となっている。 《表Ⅳ-25》

表Ⅳ-25 世帯からの連絡・照会状況

世帯からの 連絡・照会件数	1～19件	20～39件	40～59件	60件以上	14市区町 合計件数	14市区町 平均件数
市区町数	12	1	1	0	149	10.6

また、連絡・照会の主な内容についてみると、14市区町の平均で提出方法に関することは2.4件、オンライン回答に関すること及び調査票等の不足連絡は0.4件、その他は7.4件となっている。

なお、その他の主な内容としては、試験調査が本当に実施されているかの確認は1.1件、約束日時変更の連絡は0.9件となっている。 《表Ⅳ-26》

表Ⅳ-26 世帯からの連絡・照会の内訳別状況

	市区町数					14市区町 合計件数	14市区町 平均件数
	0件	1～9件	10～19件	20～29件	30件以上		
オンライン回答に関すること	9	5	0	0	0	6	0.4
提出方法に関すること	6	8	0	0	0	34	2.4
調査票等の不足連絡	10	4	0	0	0	6	0.4
その他	1	10	2	0	1	103	7.4
試験調査が本当に実施されているかの確認	-	-	-	-	-	16	1.1
約束日時変更の連絡	-	-	-	-	-	12	0.9

### 3 オンライン回答世帯の特定事務について

#### (1) 「回答状況確認表」と『調査世帯一覧』との照合状況

調査員が「回答状況確認表」と『調査世帯一覧』との照合ができなかった件数（世帯数）をみると、14市区町の平均で6.3件となっている。

これは、13市区町では全て照合できたものの、1市で「インターネット回答の利用案内」の配布誤りが発生したことによるものである。《表Ⅳ-27》

表Ⅳ-27 調査員が「回答状況確認表」と『調査世帯一覧』の照合ができなかった件数（世帯数）

照合ができなかった件数	0件	1～19件	20～39件	40～59件	60～79件	80～99件	100件以上	14市区町合計件数	14市区町平均件数
市区町数	13	0	0	0	0	1	0	88	6.3

#### (2) 「回答状況確認表」と『調査世帯一覧』との照合ができなかった場合の特定の方法

オンライン回答世帯の特定に用いた手段としては、『調査世帯一覧』に配布した「インターネット回答の利用案内」の番号が控えてあったため、そこから回答世帯の特定を行った。

#### (3) 調査員が照合できなかった原因

調査員が照合できなかった原因は、面接できた順番に「インターネット回答の利用案内」を配布し、調査員は『調査世帯一覧』の世帯番号と「インターネット回答の利用案内」の世帯番号が一致していないことに気づいていなかったためである。

また、オンライン回答世帯の特定が最後まで行えなかった世帯はなかった。

#### (4) オンライン回答世帯の特定事務についての意見・提案

- 少しでも配布誤りの件数を減らすため、「インターネット回答の利用案内」に記載されている「調査区番号・世帯番号」の印字をできる限り大きくし、今以上に見やすくしてほしい。
- 「オンライン事務説明書」の中に、修正確認シートでの修正のしかたを載せてほしい。

#### 4 調査票の提出方法について

##### (1) 任意封入提出方式についての質問状況

任意封入提出方式についての調査員からの質問件数をみると、14市区町の平均で0.2件となっており、1市で3件あったのみである。

また、調査員からの主な質問は、「郵送提出用封筒に入れて封をして渡された調査票はどうしたらよいか」などで任意封入提出方式の方法に関する質問はなかった。 《表Ⅳ-28》

表Ⅳ-28 任意封入提出方式についての調査員からの質問件数

調査員からの質問件数	0件	1~9件	10件以上	14市区町合計件数	14市区町平均件数
市区町数	13	1	0	3	0.2

任意封入提出方式についての世帯からの質問件数をみると、1町で1件あったのみであり、「調査票を封入して提出してよいか」という封入できるかどうかの質問であった。 《表Ⅳ-29》

表Ⅳ-29 任意封入提出方式についての世帯からの質問件数

世帯からの質問件数	0件	1~9件	10件以上	14市区町合計件数	14市区町平均件数
市区町数	13	1	0	1	0.1

##### (2) 郵送提出がないことについての質問状況及び市町への持参提出状況

第2次試験調査においては、14市区町のうち、2市町において郵送提出を行わなかったが、調査員からの質問はなく、世帯からの質問は2市町合わせて1件となっており、「前のように郵送提出はないのか」というものである。

また、郵送提出を行わなかった市町への持参提出の件数は、2市町合わせて3件となっている。

##### (3) 調査票の提出方法についての意見・提案

- オンライン回答が導入され、調査票の提出方法の選択肢が増えたことは、世帯にとって、より回答し易くなり、提出率の向上に直接つながる。
- 「インターネット回答の利用案内」と一緒に紙の調査票も配布すれば、調査員の負担も減り、効率的に調査事務が行えるのではないかと。
- インターネット回答の終了時期を郵送提出の終了時期と同じにするように延ばしたほうが良い。

- 封入提出については、予め調査書類収納封筒にシールがついていることから、世帯が「必ず封をしなければならない」と感じて封入提出されることがあったので、世帯に貼付けを任せる方法もあるのではないか。

## 5 郵送提出世帯の特定事務について

- (1) 調査員が民間サポートから伝達された世帯番号と『調査世帯一覧』との照合ができなかった件数の状況

調査世帯一覧の「調査員」欄と重複した件数は12市区※のうち、1市で10件発生したのみである。また、「ネット回答」欄と重複した件数は12市区の平均で0.5件となっている。 《表IV-30, 31》

※第2次試験調査を実施した14市区町のうち、2市町については郵送提出を行っていない。

表IV-30 「調査員」欄と重複した件数

「調査員」欄と重複	0件	1～9件	10～19件	20件以上	12市区 合計件数	12市区 平均件数
市区数	11	0	1	0	10	0.8

表IV-31 「ネット回答」欄と重複した件数

「ネット回答」欄と重複	0件	1～9件	10～19件	20件以上	12市区 合計件数	12市区 平均件数
市区数	8	4	0	0	6	0.5

- (2) 調査員が民間サポートから伝達された世帯番号と『調査世帯一覧』との照合ができない場合の特定の方法

調査員が民間サポートから伝達された世帯番号と『調査世帯一覧』との照合ができない事例が1市で発生した。

また、世帯の特定に用いた手段としては、『郵送提出用封筒』の「差出人」欄及び郵送提出用封筒の残部と調査世帯一覧を照合した。《表IV-32》

表IV-32 『郵送提出用封筒』の「差出人」欄を用いて特定した件数

『郵送提出用封筒』の「差出人」欄	0件	1～9件	10～19件	20件以上	12市区 合計件数	12市区 平均件数
市区数	11	0	1	0	13	1.1

(3) 世帯の特定に要した事務量

特定事務が発生した3市区の特定に要した延べ人員は、いずれも5人時間未満となっている。 《表Ⅳ-33》

表Ⅳ-33 「世帯番号」と『調査世帯一覧』の特定に要した事務量

世帯番号と『調査世帯一覧』の特定に要した延べ人員	5人時間未満	5人時間～10人時間未満	10人時間以上	12市区合計人時間	12市区平均人時間
市区数	3	0	0	4	0.3

(4) 調査員が照合できなかった原因

調査員が照合できなかった原因としては、調査員が「郵送提出封筒」の裏面に世帯番号が記載されているのを忘れバラバラに配布したことや、別の調査区の「郵送提出用封筒」に誤って配布したことなどである。

(5) 世帯の特定が行えなかった事例

郵送提出期間内に特定が行えなかった事例は、1市で1件となっている。

(6) 調査書類の審査期間における『調査世帯一覧』と郵送提出された調査票の照合状況

調査書類の審査期間における『調査世帯一覧』と郵送提出された調査票の照合ができなかった件数について、『調査世帯一覧』の「(2)世帯主又は代表者の氏名」に記入された者が調査票の氏名欄にないため照合できなかった件数は、12市区平均で2.8件となっている。

また、『調査世帯一覧』の「(2)世帯主又は代表者の氏名」又は調査票の氏名欄に記入がないため照合できなかった件数は、12市区平均で5.8件となっている。

なお、郵送提出世帯の特定ができない事例はなかった。 《表Ⅳ-34, 35》

表Ⅳ-34 『調査世帯一覧』の「(2)世帯主又は代表者の氏名」に記入された者が調査票の氏名欄にないため照合できなかった件数

	0件	1～9件	10～19件	20件以上	12市区合計件数	12市区平均件数
市区数	8	3	1	0	33	2.8

表Ⅳ-35 『調査世帯一覧』の「(2)世帯主又は代表者の氏名」又は調査票の氏名欄に記入がないため照合できなかった件数

	0件	1～9件	10～19件	20件以上	12市区合計件数	12市区平均件数
市区数	8	0	3	1	70	5.8

(7) 郵送提出世帯の特定事務についての意見・提案

- 民間サポートから調査員への連絡については、間違いを防ぐため、電話のみではなく、書面を送付する方法によっても行うべきである。
- 調査員の携帯電話番号や電子メールアドレスなどを登録させることにより、調査員への連絡手段を複数用意しておくことができないか。
- 民間サポートから調査員への連絡が1回のみで、その後は市から調査員に連絡していたことから、市の負担になった。民間サポートを正式に活用する場合は、調査員への連絡回数をさらに増やすべきである。

## 6 調査書類の審査状況

(1) 調査票の調査区番号・世帯番号の記入状況

調査票の調査区番号と世帯番号の記入漏れの件数をみると、「調査区番号と世帯番号が共に記入漏れ」は0件、「調査区番号のみ記入漏れ」は5件、「世帯番号のみ記入漏れ」は10件となっている。 《表Ⅳ-36》

表Ⅳ-36 調査票への調査区番号，世帯番号の記入状況（第2次試験調査）

	市区町数					記入漏れ 合計件数	記入漏れ率 (%) ※
	記入漏れ なし	1～19 件	20～39 件	40～59 件	60件 以上		
調査区番号と世帯番号が 共に記入漏れ	14	0	0	0	0	0	0.00
調査区番号のみ 記入漏れ	11	3	0	0	0	5	0.04
世帯番号のみ 記入漏れ	10	4	0	0	0	10	0.08

※ 回収した調査票の総数（12,615枚）に占める記入漏れ件数の割合

(2) 調査書類の審査に要した事務量

調査書類の審査に要した延べ人員は、14市区町の平均で83.1人時間となっており、第1次試験調査の94.1人時間に比べ少なくなっている。

これを、延べ人員別にみると、50人時間～100人時間未満が6市区町で最も多くなっている。 《表Ⅳ-37》

表Ⅳ-37 調査書類の審査に要した事務量

調査書類の審査に 要した延べ人員	50人時間 未満	50人時間～ 100人時間未満	100人時間～ 150人時間未満	150人時間 以上	14市区町 合計人時間	14市区町 平均人時間
市区町数	4	6	2	2	1,164	83.1

また、調査書類の審査のうち、『調査世帯一覧』との照合に要した延べ人員は、14市区町の平均で23.1人時間となっており、調査書類の審査に要した事務量の約1/4を占めている。 《表Ⅳ－38》

**表Ⅳ－38 調査書類の審査のうち、『調査世帯一覧』との照合事務に要した事務量  
(第2次試験調査)**

調査書類の審査のうち『調査世帯一覧』との照合事務に要した延べ人員	10人時間未満	10人時間～20人時間未満	20人時間～30人時間未満	30人時間以上	14市区町合計人時間	14市区町平均人時間
市区町数	2	4	4	4	324	23.1

(3) 調査書類の審査についての意見・提案

- 就業に関する項目や住宅の床面積への記入が相変わらず低いと感じた。
- 電話番号の回答率が低い、もっと目立つ部分に回答欄を設けるとよい。
- もう少し審査の流れや留意点が分かりやすいように審査要領を作成してほしい。
- 調査書類審査にあたっては、表形式の資料を独自作成し審査に活用した。
- オンライン回答の調査票について、平成27年国勢調査で審査をするのであれば、オンラインシステムで審査ができるとよい。

7 「提出状況管理システム」についての意見・提案

- システムの動作が重く、作業がしづらかった。
- 古いパソコンや古いバージョンのソフトでも動作するようなシステムを希望
- 回答日別、オンライン回答・郵送回答別に検索できるようにしてほしい。
- 世帯番号等の修正を1回の処理で変更可能となるようにしてほしい。
- 回答方法のチェック（郵送・ネット）を空欄に修正できるようにしてほしい。
- 1ページに表示される件数をできる限り多くしてほしい。
- 回答状況一覧表の右上の余白部分等にその調査単位区の回答件数が表示されていると便利。
- 回答状況のデータを調査員にメール送信できれば迅速な事務処理が可能になる。
- 要計表について、手入力を行うのではなく、システム内の世帯人数の数字を反映できるようにしてほしい。
- 調査員登録機能について、1名ずつの入力は本調査の規模では不可能である。

## 8 民間サポート関連事務について

- (1) マンション管理会社等への協力依頼に係る問題事例とその対応状況
  - 報告書には「協力了承」と記載されているが、調査員が訪問したところ、ポスターも掲示されておらず、管理人は「何も聞いていない。」という箇所が何カ所もあった。
  - 協力依頼の結果についての報告内容が不十分であった。
  - 民間サポートが協力依頼したマンションが違っていたケースがあった。
  
- (2) マンション管理会社等への協力依頼についての意見・提案
  - 協力依頼を行った結果について、市区町に連絡が来るのが遅すぎる。民間サポートにおいて協力を得るのが困難だった場合、市区町で適宜、対応せよというのであれば、もっと早く情報を提供すべきである。調査員が調査を開始する直前に情報提供されても間に合わない。
  - 結果報告にポスター掲示ありと記載してあっても、実際マンションに行ってみると掲示がしてないマンションがあったり、管理会社に連絡しても話が通じなかったりすることがあり、協力依頼の詳細について民間サポートに問い合わせても不明点が多く、調査員に無用の混乱を招く結果になった。
  
- (3) 民間サポートに委託している業務全般に係る問題事例とその対応状況
  - 調査票未提出世帯のフォローアップ回収において、世帯から調査員に誰が置いていったのかと問い合わせる事例があった。また、市あてにも担当者名等が知らされていなかった。
  - 調査用品の不足があり、サポートセンター設置前に発生した事案だったので対応ができずに市町村で不足用品を発送した。
  - 調査員が不足書類の連絡をしたところ、金曜の昼に連絡したにも関わらず、発送が月曜になると言われた。それだと間に合わないため、調査員が市に連絡してきたので、すぐに調査員のところへ不足書類を届けた。
  - 民間サポートから調査員に対し電話があった際に、調査員が用事をしていたので、後から再度電話をするようお願いをしていたにも関わらず、電話がなかった。結局調査員の方から民間サポートへ折り返しの電話をした。
  
- (4) 民間サポートに委託している業務全般についての意見・提案
  - 市町村へ民間サポートの詳細な情報（担当者等）が提供されなかったため、市町村では、民間サポートに対し不信感をもったままの業務となった。
  - 大幅な世帯増に伴う用品不足について、調査員事務打合せ会の際に用品確認を行うので、サポートセンター設置を早めにしていただきたい。



- 書類の発送については、土日も対応していただきたい。
- 「インターネット回答の利用案内」の追加希望があった際は、当該世帯用の「郵送提出用封筒」も一緒に発送していただきたい。
- 急を要する用品については速達で送っていただきたい。
- 世帯からの連絡のうち、軽微で急いだほうがよい案件（回収時間変更の連絡等）については、市区町村を經由せず直接調査員に連絡してほしい。
- 電話の対応が良くないので、きちんと対応してほしい。
- サポートセンターの受付時間を延ばしていただきたい。
- 登録調査員を調査員として推薦するのでは意味がない。
- 全般的に、かえって市町村の事務が増えているように感じられ、業務内容や責任分担の見直しが必要だと思う。

## 9 今回の試験調査の調査方法等についての意見・提案

### (1) オンライン回答を先行して行う調査方法について

- 忙しい世帯の人からも、紙の調査票は時間をとられるが、オンラインは10分前後で終わるので手間がかからないという声があった。
- 調査員にとって、調査区を2回巡回しなければいけないが、回収の必要がない上、検査もいらないので、結果的に負担は少ないと思う。
- 先行方式のオンライン回答率の高さが、後の調査票回収事務及び審査事務において、特に調査員事務の軽減に直結している点は非常に良いと思う。
- インターネット環境のない世帯などを訪問し面接できた場合に調査票を配布してもよい等、柔軟な対応ができるようにしてほしい。
- 調査員の高齢化により、調査世帯というより調査員への負担が心配である。
- ポスティングや世帯訪問など今回の試験調査の方法では最低5回は調査区を巡回しなければならなくなるため、調査員の負担が大きくなる。
- 「調査についてのお知らせ」と「インターネット回答の利用案内」との合冊又は同時配布、調査票回収と確認状配布の同時実施を行い、調査員の巡回回数を減らしていただきたい。

### (2) 「インターネット回答の利用案内」や「郵送提出用封筒」の配り分けについて

- 調査員の配布誤りを防止するため、インターネット回答の利用案内の「調査区番号・世帯番号」の印字をできる限り大きくしてほしい。
- 郵送提出用封筒の「調査区番号・世帯番号」欄を表面に記載してほしい。
- 今回は幸い誤配布がなかったが、本調査の際には必ず、調査区や単位区、世帯を間違えて配布する調査員が現れるものと思われる。本調査でも調査書類収納ファイルなどで、わかりやすく分けておく必要がある。
- 調査員に随行して、実地で多くの調査書類を携帯しながら調査活動に従事している中で、プレプリントの書類の配り分けは簡単な事務ではないが、調査経験のある調査員の、通常の注意力の範疇でこなさうる事務であると感じた。
- 本調査において、調査経験のない調査員がどれだけ配り分けできるか、疑問である。
- 封入による調査員提出の際、郵送用の封筒により提出してしまったものが相当数あったため、郵送提出・封入調査員提出共通の封筒を作成するか、郵送の場合は、希望者のみに配布する方法をとったほうがよいのではないか。
- 「郵送提出用封筒」まで個別管理するのであれば、調査票や「調査票の記入のしかた」もセットした「調査書類収納封筒」を作成していただきたい。

い。

(3) (2)以外の調査員事務について

- オンライン回答が採用されることにより調査員事務負担が増えることに配慮して、簡素化・省略化できる事務は削除すべき。
- 「インターネット回答の利用案内」など、調査書類の量が増えたため、調査の準備における事務負担が大きくなり、調査活動時の持ち運びにも苦労されていた。
- インターネット先行方式により、調査員の世帯訪問回数が増え、調査員の負担が増大した。また、世帯にとっても何度も調査員が訪れ、わずらわしいと感じている様子であった。
- 『調査世帯一覧』の「聞き取り」欄について、客体から聞きとって調査票を代筆することと勘違いしている調査員がいた。
- 客体から「郵送します」と言われ、実際に郵送提出が確認できていない世帯にも、調査世帯一覧の郵送提出に○をしている調査員がいた。
- 不在で接触が全くできず、回答もない世帯で、近隣住民や管理人などからの聞き取り調査ができる例は、実際にはわずかであり、それさえできないような事例への調査員や市区町の対処方法を、もう少し明確にしていだきたい。

(4) 市区町事務について

- 民間サポートセンターで郵送提出調査票の開封・整理を行っていただき、事務負担が軽減した。
- オンライン回答の導入で、審査事務の負担が軽減した。
- 「調査区要図」の印刷など、本番のときの市区町作業を一部していただき、市区町の作業が軽減できた。
- 試験調査においては、サポートセンターの設置により業務が軽減されたと感じる部分もあったが、本調査の規模では、現在のサポートセンターの業務精度では、逆に市区町の業務に混乱をきたすのではないかと不安である。
- マンションの協力依頼を民間サポートが委託業務として行っていたが、民間サポートの協力依頼結果からしても、民間委託する必要があるのかどうか疑問を感じた。

## 10 調査書類・用品についての意見・提案

### (1) 電子調査票

- 検索入力により、容易にログインできる環境の整備を検討してほしい。
- アドレス欄にURLを入力したが、つながらないという意見が多かった。「https」の「s」を見落としやすいのではないか。
- モバイル版は、画面自体が小さく、文字も小さいため、どうしても見にくい。
- 回答終了後、問い合わせ先として電話番号や住所情報を入力することになっているが、その欄に自宅情報ではなく、勤務先情報を入力する世帯があり、それが所在地誤りとして認識され、何故誤りなのかを把握するのに戸惑った。聞き方を工夫する必要があると感じた。
- 「調査区域の選択」について、市街地なら良いが、区画整理されていない地域などにおいては、番地が調査区域の選択肢になく「該当しない」と回答される場合があるため、番地に幅があればよい。
- 調査員用のデモ画面の案内は、調査員事務打合せ会の前に提供してほしい。

### (2) 調査票

- 調査票の表面の上部トップに「1世帯員の数」欄を設定したので見やすくなった。
- 9欄「6/13～19までの1週間に仕事をしましたか」の設問中の「仕事を休んでいた」を選択した人がそれ以降の回答をしていないケースが多いため、「10欄へ」等の表記が必要ではないか。
- 9欄の年金生活者のマーク箇所がわかりにくいため、改善いただきたい。また、幼児と同じ箇所にマークするということが心理的抵抗もあるようである。
- 次にどの欄を記入するのかという進み方が分かりにくい。
- 15欄「住宅の床面積の合計」は選択式の方がよいのではないか。
- 電話番号欄の記入幅が狭いのではないか。
- 3人連記の調査票乙を配布したが、4人連記の調査票甲と比較しても文字や全体の見やすさの点で大きくは変わらない。また、4人世帯には2枚配布が必要となるため、本調査では調査票の不足連絡への対応に追われることが予想される。

### (3) インターネット回答の利用案内

- 「調査区番号・世帯番号」の印字をもっと大きし強調することで、調査員の配布誤りを防げるのではないか。
- 『調査についてのお知らせ』との合冊は十分可能であり、調査書類の軽

量化が図れると思う。

- チラシのような普通の紙だったため、世帯にログイン情報のような重要な情報が記載されている書類とは認識されなかったようである。マンション等のポストに入れても、他の広告と同じものと認識され、ちらし用のごみ箱に捨ててあることが多かった。封筒に入れた調査票は捨てられていることはなかったようなので、表示方法や紙質を工夫するか、配布用の封筒を作成する必要があるのではないか。
- 調査の手引に記載されているような、入力画面のイメージがあると分かりやすく、調査員も世帯へ説明しやすい。

#### (4) 調査票の記入のしかた

- 平成22年国勢調査時にはあった、「住宅の床面積の合計」の部屋の畳数からの算出方法を掲載していただきたい。

#### (5) 郵送提出用封筒

- 「調査区番号・世帯番号欄」が裏面に記載されており、調査員が見落とし、誤配布の原因となったため、表面に印刷してほしい。
- 世帯が紛失したり、一度郵送で届いたものの、後日訂正したい箇所が出た世帯や調査票が足りていなかった世帯等、もう一度送りたいという世帯に配れるようにバーコードの付いていない郵送提出用封筒も用意してほしい。
- 郵送提出用封筒と調査書類収納封筒の色分けをしてほしい。
- 提出期限を記載した方がいいのではないか。

#### (6) 調査書類収納封筒

- 世帯の調査票の回収時に、調査書類収納封筒を使用して調査票が提出された例が少なく、代わりに郵送提出用封筒を使用して提出されることが多かった。そのため、調査書類収納封筒に、封入提出用封筒の機能があることを、より分かりやすく記載していただきたい。
- 調査員事務の軽減のため、調査書類収納封筒の「調査区番号・世帯番号」欄をあらかじめ印字してほしい。

#### (7) 調査員のしごと

- カラーとイラストでコンパクトに工夫され、調査員にとって大変理解しやすかったと思う。特に、表紙裏の「◆調査員の主な仕事」は事務のタイピングが一目で分かり説明もしやすかった。
- 調査員事務打合せ会で説明する際に役だった。
- 大変助かったが、調査員はこれでもう手引きをほとんど見なくなるかも

しれないという危惧もある。

- 「調査の手引」の要約版として大変好評だった。さらに「調査員のしごと」の要約版として、スケジュール的なものを中心として、A3判1枚紙のようなものを作ればなお良い。

#### (8) 調査世帯一覧

- 「世帯番号」欄と「提出状況」欄との間が開きすぎのため、調査員が記入を誤るケースが多数あった。
- 定規をあてないと記入しづらいので、世帯番号を両端に記載してほしい。
- 「住宅の建て方」欄を「～階建の～階」となるほうが一般的ではないか。
- 「提出状況」欄及び「聞き取り」欄を「調査員」「郵送提出」等ではなく、「調」「郵」等のように「一文字」で表した方が「○」印をつけた後も見やすいのではないか。
- 項目順を「世帯番号」、「世帯主又は代表者の氏名」、「所在地」、「建物の名称」、「世帯員の数」、「調査票枚数」、「面接」、「提出状況」、「聞き取り」、「住宅の建て方」、「備考」の順にしてほしい。
- 色が悪かったため、夜見づらい。フォント等工夫してほしい。
- B4版サイズのため、持ち歩く時に大きくて不便であった。

#### (9) 調査区要図

- プレプリントは好評であったが、共同住宅があり引き出し線を用いて世帯番号を記入する際に余白がなく苦慮したケースがあった。
- 調査区要図がA4からB4となることで、プレプリントをそのまま使える調査区が増え、調査員の負担が軽減されると思う。
- B4サイズは持ち歩く時やコピー時等不便であった。

#### (10) 調査書類収納ファイル

- 書類整理に非常に役立った。
- 調査票枚数が少ない場合は、上ふたが閉まらない。
- 大きすぎて非常に不便だった。もっと幅を狭くする等コンパクトになるような工夫はできないか。

#### (11) 調査書類入れ（手提げ）

- 両手が使えず苦勞するケースが多い。肩掛けバック等にしてほしい。
- 中に仕切りがあったほうがよい。
- 雨天の日を想定して、水濡れに強い材質のものを希望
- 実査時持ち歩くには大きいとの声があった。
- 調査書類入れが大きく、横長のため、自転車のかごに入らず不便であっ

たという調査員からの意見があった。

- 非常に使いやすくてよい。ほかの統計調査でも横広のカバン手提げにしてほしい。

(12) 下敷き

- 強度が弱い。板の部分をもっと厚手で頑丈にするとともに、書類を挟みこむクリップ部分をもっと強力にしたほうがよい。サイズも大きく、扱いづらい。
- 下敷きに調査日程のカレンダーがプリントされていると、世帯訪問時に説明に使えて便利だという調査員の意見があった。

(13) 従事者用腕章

- 伸び縮みする腕章は、調査員から非常に好評であった。
- 平成22年国勢調査は安全ピンで留めるものだったが、今回のような形式のほうが使いやすい。
- 伸縮性のある布製のものではなく、安全ピン等で服に固定できるようなものの方が使い勝手がよい。

(14) その他

- 「調査についてのおしらせ」は、調査区内の対象となるすべての世帯に配るものなので、あらかじめ多めに配分してほしい。

## 11 調査の実施状況の把握

- 「先行方式」について調査員が不慣れあるいは調査員自身理解が十分でないため、世帯への説明に苦勞していた。
- 「インターネット回答の利用案内」を配布する段階で、インターネットができない、パソコンがないなどの理由で紙の調査票を希望される場合が多かった。
- 平日の日中は、ワンルームアパートなど単身者が居住すると思われる世帯は、ほとんどが不在であった。
- オートロックマンションはまず中に入ることが非常に難しい。そもそも土日を含めて不在世帯が多く、夜20時頃に訪問してもまだ帰宅していない世帯も多い。深夜の時間帯に世帯を訪問するのは常識的に不可能であるため、いくら訪問しても面接不能世帯は面接不能である。また、居留守と思われる世帯も非常に多かった。
- 少なくとも3回以上世帯を訪問しても面接できない場合は、調査書類のポストイングも可としていたが、このように世帯の訪問回数等で具体的な数字を示すことは、調査票の回収率との兼ね合いもあるものの、世帯との面接に責任感の強い調査員の労力や判断の負担を軽減することにつながりうる点では良いと思う。



## 12 平成27年国勢調査の実施に向けての意見・提案

### (1) オンライン調査関係

- 「国勢調査」など検索入力により、容易にログインできる環境の検討
- インターネット回答期間を延長してほしい。
- 先行方式で行う場合は、パソコンのない世帯などに対する柔軟な対応が必要。

### (2) 調査員事務関係

- 調査員の高齢化が進んでいること、また、調査員が調査内容を十分に理解することが困難なことから、調査員業務をより簡易なものにするとともに、調査員の負担を大幅に軽減する必要がある。

### (3) 調査方法関係

- 調査期間の長期化、方法の複雑化を伴う先行方式による調査を、調査員に簡潔明瞭に説明し理解を得るのは困難である。また、インターネット回収された世帯の情報について短期間に確実に調査員に連絡し、調査員がその内容を確認することは、本調査では非常に困難である。
- オンライン回答を先行する調査方法や郵送提出により調査員の各仕事（調査票等の配布・回収等）が数日単位で行わなければならないことは避けてほしい。
- 調査票の配布と回収は、週末（金～日）が2回入ることが望ましい。

### (4) 民間サポート関係

- 民間サポートについて、少なくとも調査員事務打合せ会の時期から用品のサポート体制だけは出来上がっていてほしい。
- 民間サポートの業務を遺漏なく確実に実施するため、契約内容及び契約方法を精査していただきたい。
- 民間サポートからの調査員推薦について、自治会によって調査員の不足が考えられることから、本調査でも行ってほしい。
- マンション協力依頼の業務は、本調査においても、民間サポートに委託していただければ市の負担は軽減されます。

### (5) 協力依頼関係

- オートロックマンションや単身世帯マンションなどは、今回の試験調査でも回答率が悪い状況にあることから、事前にマンション管理会社等を通じて協力依頼のチラシを配布するなど、協力依頼を徹底する必要がある。

(6) 広報関係

- 平成27年国勢調査に向けては、大学生のような単身で生活している若年層に対する調査の周知が必要不可欠なのではないかと感じられた。
- 学校等へオンライン回答を含めた国勢調査のPR活動をしたらどうか。
- 調査実施の周知を増やしてほしい（特に事前広報）。最近は新聞をとっていない世帯も多い。テレビ番組で取り上げるにも、調査期日直前ではなく調査票配布期間より前から、若い世代が在宅している時間帯での放送を増やしてほしい。

(7) その他

- オンライン回答の導入により、調査員事務の負担が大きく増大している。また、個人情報保護意識の高まりにより、調査活動は年々厳しいものとなっているにも関わらず調査員報酬は減額の傾向にあるため、調査員報酬を増額してほしい。

### 13 マンション管理会社との委託契約による調査の実施状況（東京都中央区）

(1) 委託による調査の実施状況

ア 実施した調査区

東京都中央区内のマンションのみで構成する調査区（2調査区）

イ 実施した調査区（マンション）の状況

- 分譲マンション（オートロックではない）であるが、賃貸で貸している住居もある。
- 子供や高齢者に関係なく、住民から管理人に挨拶してくれる人が多い。

ウ 調査の状況

- マンション内の4カ所（掲示板、エレベーターの中など）に、掲示用ポスターなどを早めに掲示したため、世帯を訪問したときに調査のことを認識している世帯が多かった（事前掲示の効果は高かった）。
- 全体的には協力的であったが、昼間留守の世帯が多く、朝や夜に訪問しないと回収率は上がらない状況であった。
- 実際に会って調査票を渡せたのは半分くらいで、残りは留守のため連絡メモを活用しながら、配布した。
- インターネット回答の期限を忘れてしまい、紙で提出した世帯があった。
- 調査員に提出された調査票は1件を除いて全て封入されていた。
- 世帯からの質問は少なかったが、住宅の床面積がわからないので確認

にきた人（管理人室に置いてある販売図で対応）や高齢者で質問しながら一緒に記入した人がいた。

#### エ 調査を担当した管理人の感想

- 思ったよりも手間がかかったが、困ったことはなかった。
- 管理人が調査員として調査を行ったため、協力的な人が多かったが、外部の人が調査員を行った場合は拒否反応を示す世帯があるのではないか。
- 事務の繁杂さや訪問回数などを考えると、日常の勤務時間内では事務をさばけない。
- 部屋番号で管理しているので、世帯番号に応じて配布するのがピンとこなかった。

#### オ 管理会社の感想

- 月曜から金曜の9時から17時以外は残業となるので、残業代は会社が払うが、はじめは残業時間が多かったため、赤字になるのではないかと不安だった（結果的には委託額の金額内で収まった）。
- 今回は協力的であったが、例えば、オーナーが全国各地に散らばっている投資用のマンション（全て賃貸として利用）で、住民が全く協力的でないマンションもある。

#### カ 地方公共団体の意見

- 調査業務を行った管理人から円滑に調査ができたという話があり、管理人に調査をしてもらうのは有効ではないか。
- マンション管理会社への委託については、平成26年度からマンション管理会社等との調整が必要。国、都道府県が事前に調整を行い、区市町村の委託業務を支援することが必要。
- マンション管理会社への調査員業務委託は有効であるが、各自治体が個別に管理会社や管理組合と交渉し、契約まで持ち込むには時間を要し、大きな障害となるため、国・都道府県が管理会社ごとにその管理するマンションと一括契約をしていただきたい。

#### (2) 委託した調査区の調査票の回収状況

東京都中央区内の委託した調査区（2調査区）とそれ以外の調査区の回収状況をみると、調査員回収では、委託していない調査区（それ以外の調査区）に比べ、委託した調査区の回収が約2倍となっており、郵送やオンラインを含めた全体の回収率でも比較して高い割合となっている。 《表Ⅳ－39》

表IV-39 調査票回収の有無，調査票の回収方法，調査区別世帯数及び割合（東京都中央区）

(人, %)

	(実数)			(構成比)		
	総数	委託した調査区 1)	それ以外の調査区	総数	委託した調査区 1)	それ以外の調査区
総数	743	150	593	100.0	100.0	100.0
回収あり	399	90	309	53.7	60.0	52.1
調査員	55	18	37	7.4	12.0	6.2
郵送	212	57	155	28.5	38.0	26.1
オンライン	132	15	117	17.8	10.0	19.7
回収なし（聞き取り）	344	60	284	46.3	40.0	47.9

1) 調査員業務をマンション管理人に委託した，調査区番号316-1及び317-1の2調査区。

### 第3 審査結果記録表

#### 1 記入漏れ等の状況及び補筆訂正の状況（聞き取り調査票を除く）

調査票の「世帯員数の不一致」又は「記入漏れ」のある調査事項のうち、補筆訂正できた調査事項の状況については、世帯から聞かなくても補筆訂正できた調査事項の割合が20.8%、世帯から聞いて補筆訂正できた調査事項が5.0%となっている。

また、住民基本台帳により補記の対象となる調査事項について補筆訂正できた調査事項は39.9%となっている。 《表IV-40, 41》

注) 本記録表においては、次の取扱いとした。

- ・「世帯員数不一致」・・・ 調査票の「氏名及び男女の別」、調査票の「世帯員の数」及び『調査世帯一覧』の「世帯員の数」それぞれの“男女別の世帯員の数”及び“世帯員の総数”が一致していない。
- ・「記入漏れ」・・・ 調査票の記入すべき欄に記入がない。
- ・住民基本台帳での補記・・・ 調査票の「世帯主との続柄」、「出生の年月」、「配偶の関係」等に記入漏れがある世帯員について、世帯照会をしても補記できない場合に、住民基本台帳と照合し補記を実施。なお、「配偶の関係」は、「世帯主との続柄」から既婚であることが確認できた場合についてのみ補記

表IV-40 記入漏れ等の状況及び補筆訂正の状況（住民基本台帳による補記を除く）

		(件, %)		
		「世帯員数の不一致」又は「記入漏れ」のある調査事項	(構成比)	
			世帯から聞かなくても補筆訂正できた調査事項 1)	世帯から聞いて補筆訂正できた調査事項
総数		10,111	20.8	5.0
調査方法	A	8,450	19.6	5.0
	B	1,661	27.2	5.2
調査票	甲	9,116	22.5	4.3
	乙	995	6.1	11.6
地域特性	オートロックマンション地域	2,722	18.5	4.0
	単身者が居住する住宅が多い地域	1,800	21.3	3.4
	一戸建の多い地域	2,929	21.3	6.6
	2) その他の地域	2,164	22.8	2.8
(別掲)				
調査員回収		4,721	21.2	5.7
郵送提出		5,390	20.5	4.4

1) 住民基本台帳による補記の対象となる調査事項を除く

2) 東かがわ市を除く

表Ⅳ－41 記入漏れ等の状況及び補筆訂正の状況（住民基本台帳による補記の対象となる調査事項）

		(件, %)	
		「世帯員数の不一致」又は「記入漏れ」のある調査事項 (※住民基本台帳による補記が可能な調査事項)	(構成比)
			住民基本台帳で補筆訂正できた調査事項
総数		1,541	39.9
調査方法	A	1,187	36.8
	B	354	57.3
調査票	甲	1,451	27.8
	乙	90	27.8
地域特性 1)	オートロックマンション地域	347	35.4
	単身者が居住する住宅が多い地域	298	36.2
	一戸建の多い地域	493	49.5
	その他の地域	331	44.4
(別掲)			
調査員回収		858	46.7
郵送提出		683	35.0

1) 東かがわ市を除く

## 2 調査項目別補筆訂正の状況

調査員回収及び郵送提出調査票について、補筆訂正の状況をみると、世帯から聞かなくても補筆訂正できた調査事項については、「世帯の種類」が50.4%、世帯から聞いて補筆訂正できた調査事項については、「現在の場所に住んでいる期間」が8.3%、住民基本台帳で補筆訂正できた調査事項については、「出生の年月」の「年」が46.0%、「月」が40.8%となっている。 《表IV-42》

表IV-42 記入漏れ等の状況及び補筆訂正の状況（調査員回収及び郵送提出）

		(件, %)											
		「世帯員数の不一致」又は「記入漏れ」のある調査事項				調査員				郵送			
		(構成比)				(構成比)				(構成比)			
		うち、世帯から聞かなくても補筆訂正できた調査事項(※)除く	うち、世帯から聞いて補筆訂正できた調査事項	うち、住民基本台帳で補筆訂正できた調査事項(※)	「世帯員数の不一致」又は「記入漏れ」のある調査事項	うち、世帯から聞かなくても補筆訂正できた調査事項(※)除く	うち、世帯から聞いて補筆訂正できた調査事項	うち、住民基本台帳で補筆訂正できた調査事項(※)	「世帯員数の不一致」又は「記入漏れ」のある調査事項	うち、世帯から聞かなくても補筆訂正できた調査事項(※)除く	うち、世帯から聞いて補筆訂正できた調査事項	うち、住民基本台帳で補筆訂正できた調査事項(※)	
男女の別		58	13.8	0.0	24.1	34	44.1	0.0	41.2	24	54.2	4.2	45.8
「氏名及び男女の別」の記入員数と「世帯員の数」との不一致		195	26.0	0.0	10.4	113	66.0	0.0	20.6	82	78.9	2.1	8.4
世帯主との続き柄		236	16.9	0.0	31.3	144	31.9	0.0	58.4	92	63.4	1.2	24.4
出生の年月	元号(西暦)	100	22.0	1.3	25.4	66	41.7	3.5	45.8	34	56.5	4.3	28.3
	年	120	0.0	2.0	46.0	76	0.0	6.1	69.7	44	8.8	8.8	73.5
	月	355	3.3	5.8	40.8	196	5.3	11.8	64.5	159	0.0	13.6	75.0
配偶者の有無		187	22.0	0.3	16.3	83	44.4	0.5	32.7	104	51.6	3.1	23.3
国籍	マーク	42	10.2	1.6	24.6	22	22.9	3.6	55.4	20	18.3	3.8	62.5
	国名	109	0.0	0.0	26.2	63	0.0	0.0	50.0	46	10.0	0.0	5.0
現在の場所に住んでいる期間		167	7.3	8.3	-	78	12.7	14.3	-	89	13.0	13.0	-
5年前はどこに住んでいましたか	マーク	119	21.6	1.8	-	52	46.2	3.8	-	67	49.4	5.6	-
	都道府県名	85	12.6	0.8	-	41	36.5	1.9	-	44	47.8	6.0	-
	市町村名	101	4.7	0.0	-	41	19.5	0.0	-	60	20.5	9.1	-
	区名	180	4.0	1.0	-	87	9.8	2.4	-	93	26.7	0.0	-
住宅の建て方	マーク	82	37.8	0.0	-	15	78.2	0.0	-	67	86.0	0.0	-
	住んでいる住宅のある階	88	12.2	0.0	-	14	66.7	0.0	-	74	92.5	0.0	-
	建物全体の階数	226	10.2	0.0	-	130	64.3	0.0	-	96	91.9	0.0	-
世帯の種類		292	50.4	0.4	-	132	87.7	0.8	-	160	69.8	0.0	-
1週間に仕事をしましたか		793	5.8	4.8	-	361	12.9	18.9	-	432	11.3	18.1	-
従業地又は通学地	マーク	478	15.1	1.8	-	176	37.1	6.1	-	302	27.8	3.5	-
	都道府県名	418	14.4	0.6	-	132	40.9	2.8	-	286	22.5	3.0	-
	市町村名	395	5.3	1.0	-	116	18.9	4.5	-	279	18.5	2.8	-
	区名	477	3.5	0.5	-	233	12.1	1.7	-	244	11.5	3.2	-
勤めか自営かの別		637	1.3	3.8	-	310	3.9	12.0	-	327	2.0	7.0	-
勤め先・業主などの名称及び事業の内容	勤め先・業主などの名称	744	3.6	4.1	-	377	9.4	12.3	-	367	4.6	7.3	-
	事業の内容	725	6.9	3.8	-	349	17.0	10.6	-	376	10.4	7.1	-
本人の仕事の内容		280	2.8	3.7	-	126	7.4	13.5	-	154	7.7	6.1	-
住居の種類		666	8.6	1.1	-	272	19.0	2.4	-	394	9.1	2.6	-
電話番号		1,508	2.7	2.3	-	758	8.1	6.6	-	750	7.6	7.1	-

### 3 聞き取り調査票の補筆訂正の状況

聞き取り調査票の補筆訂正の状況をみると、住民基本台帳で「男女の別」が補筆訂正できた割合は32.3%となっている。 《表IV－43》

表IV－43 聞き取り調査票における補筆訂正の状況

(件, %)

		「世帯員数の不一致」 又は 「記入漏れ」 のある調査事項	(構成比)
			住民基本台帳で補筆訂正できた調査事項
男女の別		2,051	32.3
「氏名及び男女の別」の記入員数と「世帯員の数」との不一致		1,818	18.4
世帯主との続き柄		1,799 1)	9.8
出生の年月	元号(西暦)	1,799 1)	14.9
	年	1,799 1)	14.9
	月	1,799 1)	14.9
配偶者の有無		1,799 1)	6.9
国籍	マーク	1,799 1)	9.4
	国名	1,799 1)	0.1

1) 調査票の集計結果